

添付資料 3

人材育成に関するアンケート結果について

平成26年5月

産業人材対策課企画班

目 次

調査目的	1
調査対象及び回収結果	1
調査内容（項目）	3
企業ニーズ	
企業ニーズ（業種比較）	4
企業ニーズ（人材確保・人材満足度）	6
学生ニーズ	
学生ニーズ（職業を選ぶ際に優先すること）	7
学生ニーズ（志望の業種）	9
学生ニーズ（就職先を選ぶ際に優先すること）	12
学生ニーズ（就職先で希望する勤務地）	15
学生ニーズ（仕事を選ぶ際の相談先・情報収集先）	17
学生ニーズ（仕事を決める際に必要な支援）	22
学生ニーズ（就職活動で不安を抱えていること）	25
企業ニーズと学生ニーズの比較	
企業ニーズと学生ニーズの比較〔企業が学生に求める能力／学生が必要と感じる能力〕	27
企業ニーズと学生ニーズの比較〔企業が学生に不足と感じる能力／学生が自分に不足と感じる能力〕	29
企業ニーズと学生ニーズの比較〔企業が学生に求める能力／企業が学生に不足と感じる能力〕	31

人材育成に関するアンケート結果について

～企業ニーズ及び学生ニーズの調査～

■調査目的

県内企業のニーズに対応した人材を育成・供給していくため、企業ニーズと学生ニーズを把握し、産学官連携による人材育成の効果的な実施に役立てる。

■調査対象及び回収結果

(企業)

主に産業人材対策課の事業（企業PRセミナー、工場見学会）に協力いただいている企業等150社を対象に実施した。（産業人材対策課関係131社、中小企業団体中央会紹介企業29社）

うち87社から回答があり、1. 業種別では製造業が半数以上（55.3%）と最も多く、2. 規模（従業員数）では30～99人以下、100～299人で全体の半数以上（60.0%）を占めている。3. 所在地では仙台が約半数（49.4%）で、4. 宮城県内で事業開始（創業、移転）してからの期間では、10年未満の企業が1割強（10.6%）であった。

1. 業種

NO	項目	回答数	割合
1	A.農業、林業	1	1.2%
2	B.漁業	0	0.0%
3	C.鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0%
4	D.建設業	3	3.5%
5	E.製造業	47	55.3%
6	F.電気・ガス・熱供給・水道業	2	2.4%
7	G.情報通信業	4	4.7%
8	H.運輸業、郵便業	2	2.4%
9	I.卸売業、小売業	8	9.4%
10	J.金融業、保険業	0	0.0%
11	K.不動産業、物品賃貸業	1	1.2%
12	L.学術研究、専門・技術サービス業	2	2.4%
13	M.宿泊業、飲食サービス業	3	3.5%
14	N.生活関連サービス業、娯楽業	0	0.0%
15	O.教育、学習支援業	1	1.2%
16	P.医療、福祉	3	3.5%
17	Q.複合サービス事業	0	0.0%
18	R.サービス業(他に分類されないもの)	11	12.9%
19	S.公務(他に分類されるものを除く)	0	0.0%
20	T.その他	0	0.0%
21	不明・無回答	0	0.0%
	計	88	

2. 規模(従業員数)

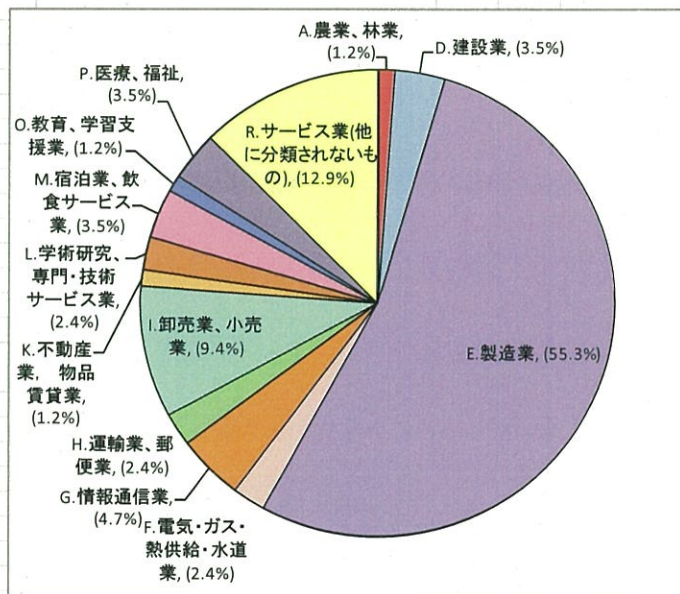
NO	項目	回答数	割合
1	29人以下	9	10.6%
2	30～99人以下	27	31.8%
3	100～299人以下	24	28.2%
4	300～499人以下	12	14.1%
5	500～999人以下	7	8.2%
6	1,000人以上	8	9.4%
7	不明・無回答	0	0.0%
	計	87	

3. 所在地(市区町村)

NO	項目	回答数	割合
1	仙台(仙台市、名取市、岩沼市、亶理郡)	42	49.4%
2	大和(黒川郡大和町、黒川郡富谷町、黒川郡大衡村)	7	8.2%
3	塩釜(塩釜市、多賀城市、黒川郡大郷町、宮城郡)	5	5.9%
4	石巻(石巻市、東松島市、牡鹿郡)	5	5.9%
5	大崎(大崎市、加美郡、遠田郡)	13	15.3%
6	大河原(角田市、柴田郡、伊具郡)	3	3.5%
7	白石(白石市、刈田郡)	2	2.4%
8	栗原(栗原市)	6	7.1%
9	登米(登米市)	1	1.2%
10	気仙沼(気仙沼市、本吉郡)	12	14.1%
11	不明・無回答	0	0.0%
	計	96	

4. 宮城県内で事業を開始(創業、移転)してからの期間

NO	項目	回答数	割合
1	概ね30年以上	57	67.1%
2	概ね20年以上30年未満	11	12.9%
3	概ね10年以上20年未満	10	11.8%
4	概ね5年以上10年未満	4	4.7%
5	概ね5年未満	5	5.9%
6	不明・無回答	0	0.0%
	計	87	



(大学)

県内 14 大学及び仙台高等専門学校、東北職業能力開発大学校（学年問わず）の 16 校を対象に実施した。

うち県内大学 10 校、仙台高等専門学校、東北職業能力開発大学校の計 12 校から 700 名の回答があった。1. 学校等では、私立大学 513 名で最も多かった。2. 学部では、文系学部 310 名 (44.3%)、理工系学部 33 名 (54.6%) で、3. 学年では、3 年生 388 名 (55.4%) が最も多く、4. 性別では、男が 377 名 (53.9%)、女が 319 名 (45.6%) であった。5. 居住地では、県内が 445 名 (63.6%)、県外が 250 名 (35.7%)、県内で最も多かったのは、仙台 258 名 (36.9%) であった。

1. 学校等				2. 学部			
NO	項目	回答数	割合	NO	項目	回答数	割合
1	国公立大学	80	11.4%	1	文系学部	310	44.3%
2	私立大学	513	73.3%	2	理工系学部	382	54.6%
3	短期大学	42	6.0%	3	不明・無回答	8	1.1%
4	高等専門学校	65	9.3%		計	700	
5	専門学校・各種学校	0	0.0%				
6	不明・無回答	0	0.0%				
	計	700					
3. 学年				4. 性別			
NO	項目	回答数	割合	1	男	339	59.1%
1	1 学年	61	8.7%	2	女	231	40.2%
2	2 学年	77	11.0%	3	不明・無回答	4	0.7%
3	3 学年	388	55.4%		計	574	
4	4 学年	37	5.3%				
5	その他(大学院等)	134	19.1%				
6	不明・無回答	3	0.4%				
	計	700					
				5. 居住地			
NO	項目	回答数	割合	1 <td>仙台(仙台市、名取市、岩沼市、亶理郡、)</td> <td>258</td> <td>36.9%</td>	仙台(仙台市、名取市、岩沼市、亶理郡、)	258	36.9%
1	仙台(仙台市、名取市、岩沼市、亶理郡、)	258	36.9%	2	大和(黒川郡大和町、黒川郡富谷町、黒川郡大衡村)	13	1.9%
2	大和(黒川郡大和町、黒川郡富谷町、黒川郡大衡村)	13	1.9%	3	雄登(雄登市、多賀城市、黒川郡大郷町、宮城郡)	37	5.3%
3	雄登(雄登市、多賀城市、黒川郡大郷町、宮城郡)	37	5.3%	4	石巻(石巻市、東松島市、牡鹿郡)	36	5.1%
4	石巻(石巻市、東松島市、牡鹿郡)	36	5.1%	5	大崎(大崎市、加美郡、遠田郡)	47	6.7%
5	大崎(大崎市、加美郡、遠田郡)	47	6.7%	6	大河原(角田市、柴田郡、伊具郡)	17	2.4%
6	大河原(角田市、柴田郡、伊具郡)	17	2.4%	7	白石(白石市、刈田郡)	8	1.1%
7	白石(白石市、刈田郡)	8	1.1%	8	栗原(栗原市)	6	0.9%
8	栗原(栗原市)	6	0.9%	9	登米(登米市)	16	2.3%
9	登米(登米市)	16	2.3%	10	気仙沼(気仙沼市、本吉郡)	7	1.0%
10	気仙沼(気仙沼市、本吉郡)	7	1.0%	11	北海道・東北(宮城県を除く)	199	28.4%
11	北海道・東北(宮城県を除く)	199	28.4%	12	関東	32	4.6%
12	関東	32	4.6%	13	中部	13	1.9%
13	中部	13	1.9%	14	近畿	2	0.3%
14	近畿	2	0.3%	15	中国	1	0.1%
15	中国	1	0.1%	16	四国	1	0.1%
16	四国	1	0.1%	17	九州・沖縄	1	0.1%
17	九州・沖縄	1	0.1%	18	その他(海外)	1	0.1%
18	その他(海外)	1	0.1%		不明・無回答	5	0.7%
	不明・無回答	5	0.7%		計	700	
	計	700					

(高校)

県内の高校 21 校で主に進路が決まった生徒（3 年生）を対象に実施した。

うち 1. 学校等では県立高校が 15 校 824 名で最も多く、2. 学科では、普通科 375 名 (42.7%)、普通科以外（専門科）502 名 (57.1%) であった。3. 学年では、主に進路が決まった生徒が対象であったことから、ほとんどが高校 3 年生 (98.3%) であった。4. 性別では、男が 516 名 (58.7%)、女が 356 名 (40.5%) であった。5. 居住地では、気仙沼（気仙沼市、本吉郡）の 212 名 (24.1%)、大崎（大崎市、加美郡、遠田郡）の 149 名 (17.0%)、仙台（仙台市、名取市、岩沼市、亶理郡）の 115 名 (13.1%) の順に多かった。

1. 学校等				2. 学科			
NO	項目	回答数	割合	NO	項目	回答数	割合
1	県立高校	815	92.7%	1	普通科	375	42.7%
2	市立高校	36	4.1%	2	普通科以外(専門科)	502	57.1%
3	私立高校	28	3.2%	3	不明・無回答	2	0.2%
	計	879			計	879	

3. 学年				4. 性別			
NO	項目	回答数	割合	NO	項目	回答数	割合
1	2 学年	7	0.8%	1	男	516	58.7%
2	3 学年	864	98.3%	2	女	356	40.5%
3	4 学年	1	0.1%	3	不明・無回答	7	0.8%
4	不明・無回答	7	0.8%		計	879	
	計	879					

5. 居住地			
NO	項目	回答数	割合
1	仙台(仙台市、名取市、岩沼市、亶理郡、)	115	13.1%
2	大和(黒川郡大和町、黒川郡富谷町、黒川郡大衡村)	4	0.5%
3	雄登(雄登市、多賀城市、黒川郡大郷町、宮城郡)	56	6.4%
4	石巻(石巻市、東松島市、牡鹿郡)	22	2.5%
5	大崎(大崎市、加美郡、遠田郡)	149	17.0%
6	大河原(角田市、柴田郡、伊具郡)	112	12.7%
7	白石(白石市、刈田郡)	110	12.5%
8	栗原(栗原市)	29	3.3%
9	登米(登米市)	63	7.2%
10	気仙沼(気仙沼市、本吉郡)	212	24.1%
11	不明・無回答	6	0.7%
	計	878	

■調査内容（項目）

調査内容は以下のとおりで、詳細の項目は P33～38 のアンケート用紙参照。

	企業ニーズ	学生ニーズ
調査項目	1. 求める人材像 2. 重視するスキル、 3. 若年者のイメージ 4. 定着状況 5. 人材育成の取組状況	1. 学生の希望業種、職種、就職の優先事項 2. 就職に必要なスキル 3. 自己分析 4. 就職活動の状況

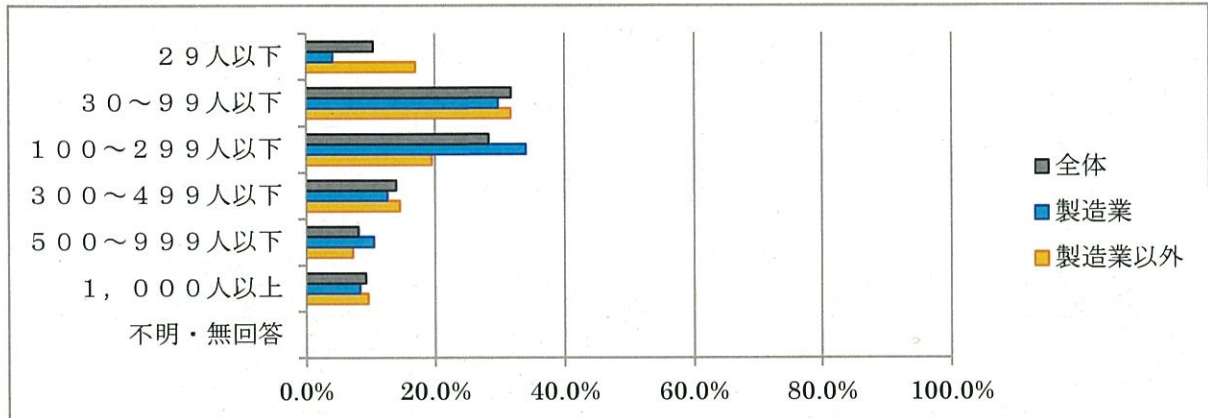
■企業ニーズ（業種比較）

回答のあった87社の業種としては、半数以上である47社（55.3%）が製造業であったことから、製造業47社と製造業以外41社のニーズを比較した。

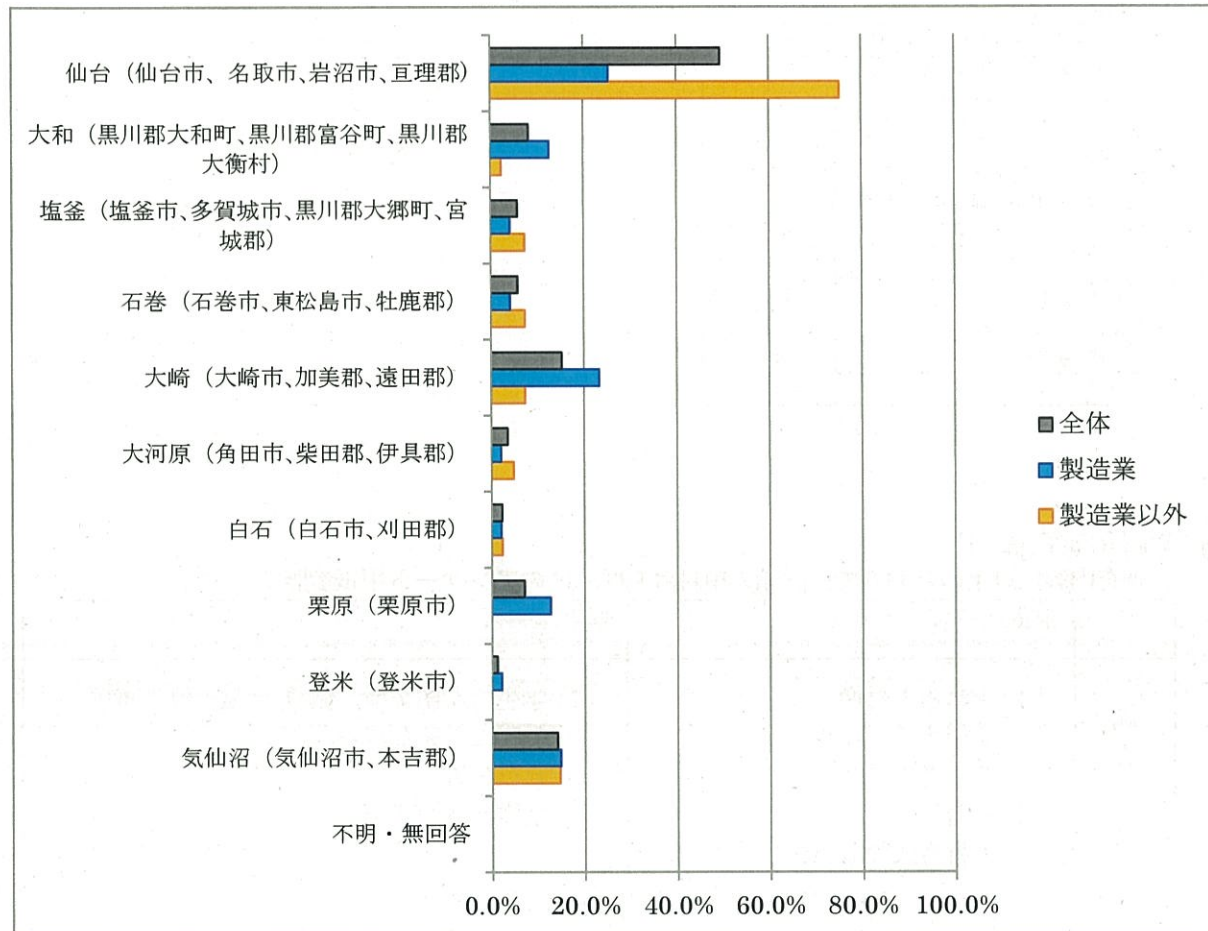
業種別で比較すると、規模（従業員数）、所在地（市区町村）で若干の偏りはあるものの、人材確保にあたり重視する能力を見てみると、企業が求める能力としては「コミュニケーション能力」、「主体性」、「規律性」、「一般常識」などの順で高い数値となった。

※グラフ：製造業47社及び製造業以外41社をそれぞれ100とした場合の割合

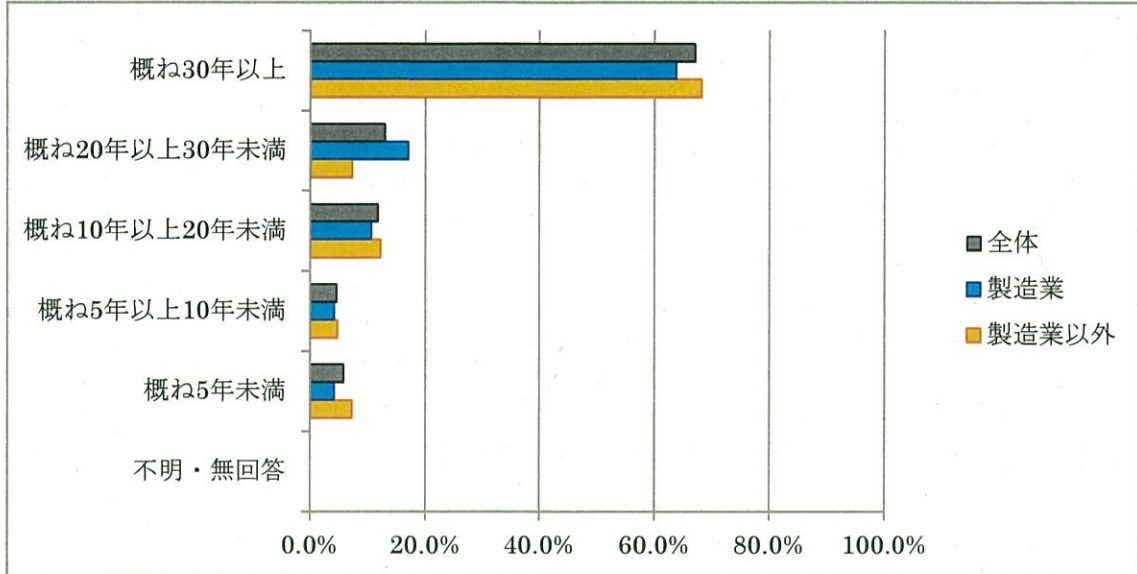
規模（従業員数）



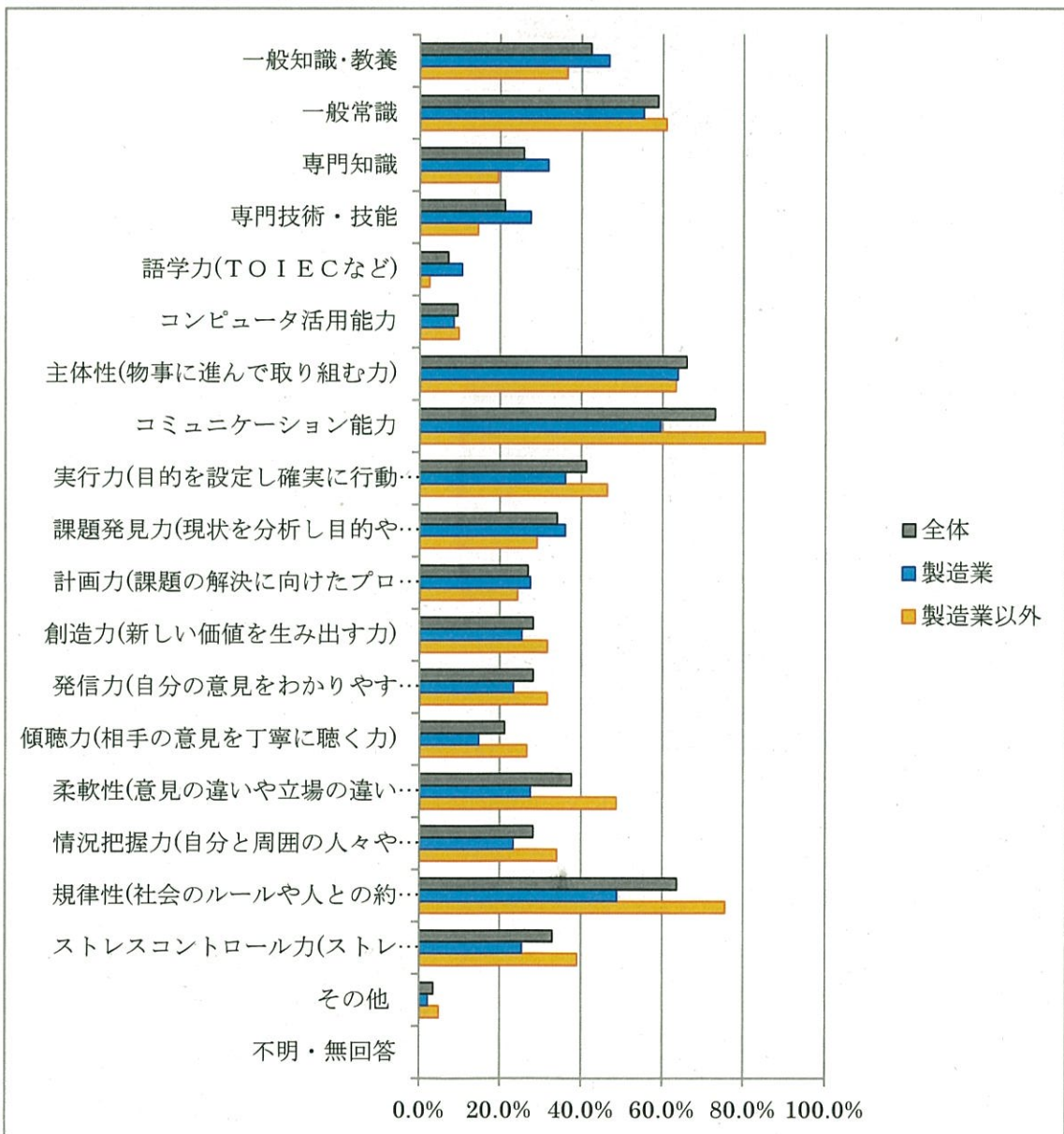
所在地（市区町村）



宮城県内で事業を開始（創業、移転）してからの期間



人材確保にあたり重視する能力



■企業ニーズ（人材確保・人材満足度）

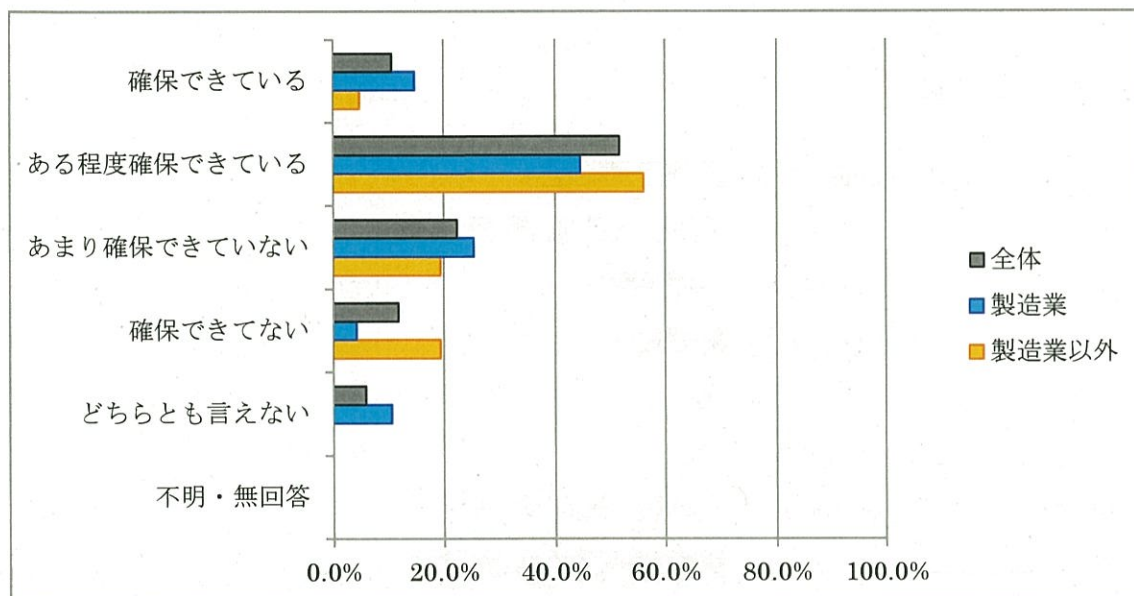
回答のあった87社の業種としては、半数以上である47社（55.3%）が製造業であったことから、製造業47社と製造業以外41社のニーズを比較した。

人材確保の状況で比較すると、全体87社のうち「確保できている（9社 10.6%）」、「ある程度確保できている（44社 51.8%）」と全体の62.4%（53社）であった。製造業47社のうち「確保できている（7社 14.9%）」、「ある程度確保できている（21社 44.7%）」と製造業の59.6%（28社）で、製造業以外41社のうち「確保できている（2社 4.9%）」、「ある程度確保できている（23社 56.1%）」と製造業以外の61.0%（25社）であった。

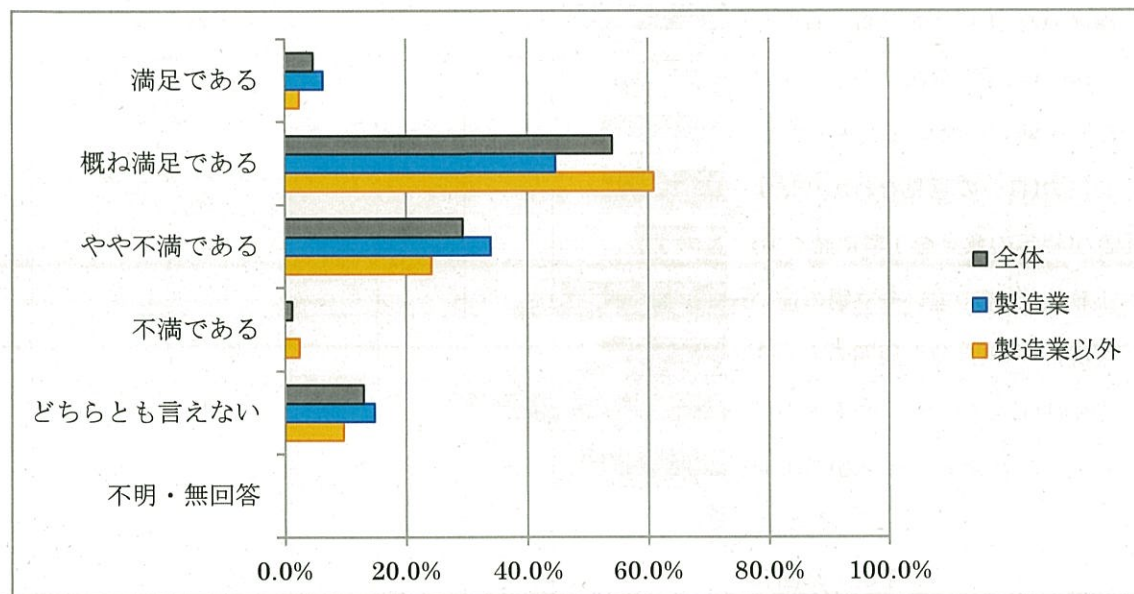
人材満足度の状況で比較すると、全体87社のうち「満足である（4社 4.7%）」、「概ね満足である（46社 54.1%）」と全体の58.8%（50社）であった。製造業47社のうち「満足である（3社 6.4%）」、「概ね満足である（21社 44.7%）」と製造業の51.1%（24社）で、製造業以外41社のうち「満足である（1社 2.4%）」、「概ね満足である（25社 61.0%）」と製造業以外の63.4%（26社）であった。

※グラフ：製造業47社及び製造業以外41社をそれぞれ100とした場合の割合

人材確保の状況



人材満足度



■学生ニーズ〔職業（業種・分野）を選ぶ際に優先すること〕

大学生 700 名及び高校生 879 名が職業を選ぶときに優先することを学部・学科別、性別、出身地別（大学生のみ）で比較した。

大学生・高校生ともに「やりがい」をもっとも優先し、次に「自分の能力・経験を活かせる」、「安定性」がほぼ同じ割合で続き、大学生及び高校生は同じような傾向であった。

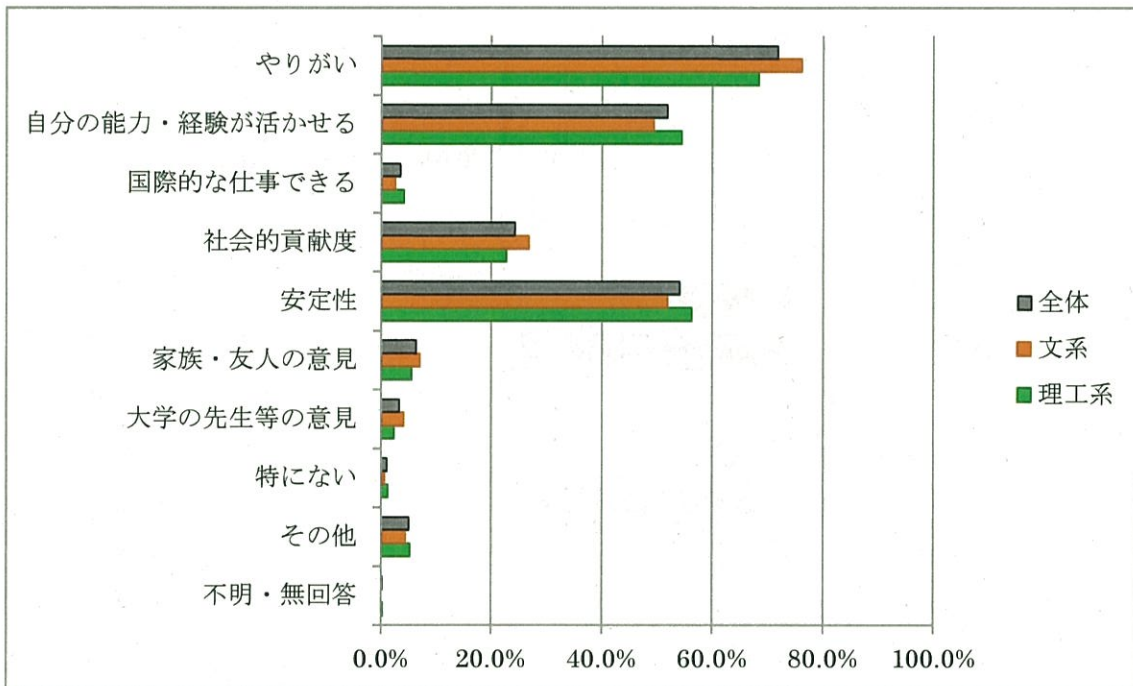
※グラフ

・学部別では、大学生は文系学部 310 名、理工系学部 382 名、高校生は普通科 375 名、専門科 502 名を 100 とした場合の割合

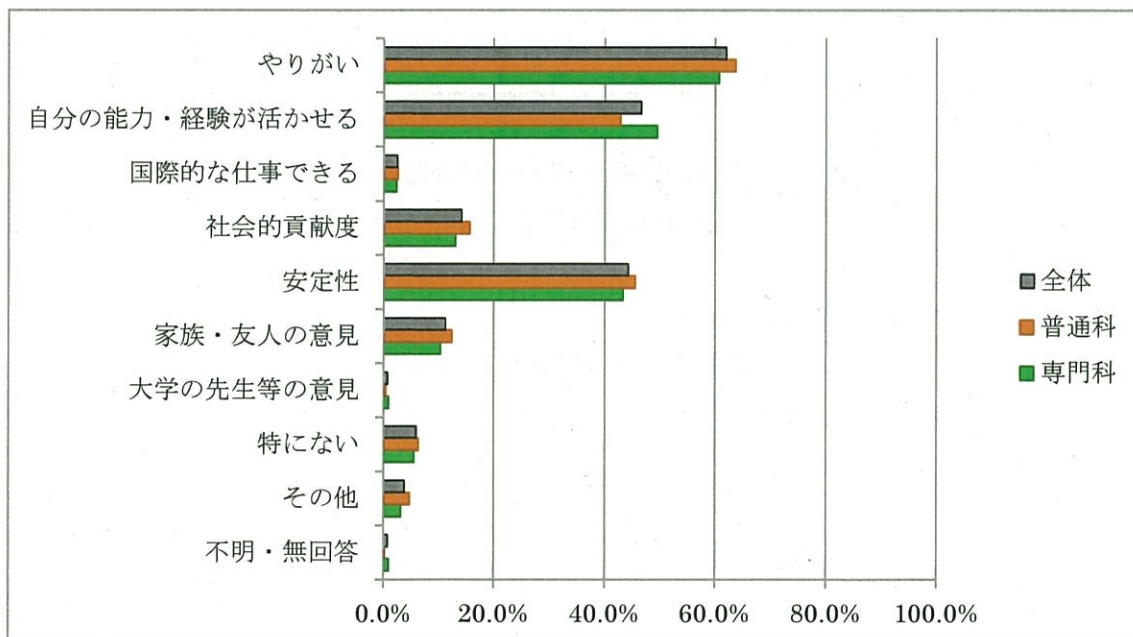
・性別では、大学生は男 377 名、女 319 名、高校生は男 516 名、女 356 名を 100 とした場合の割合

・出身地別では、大学生は県内 445 名、県外 250 名を 100 とした場合の割合（大学生のみ）

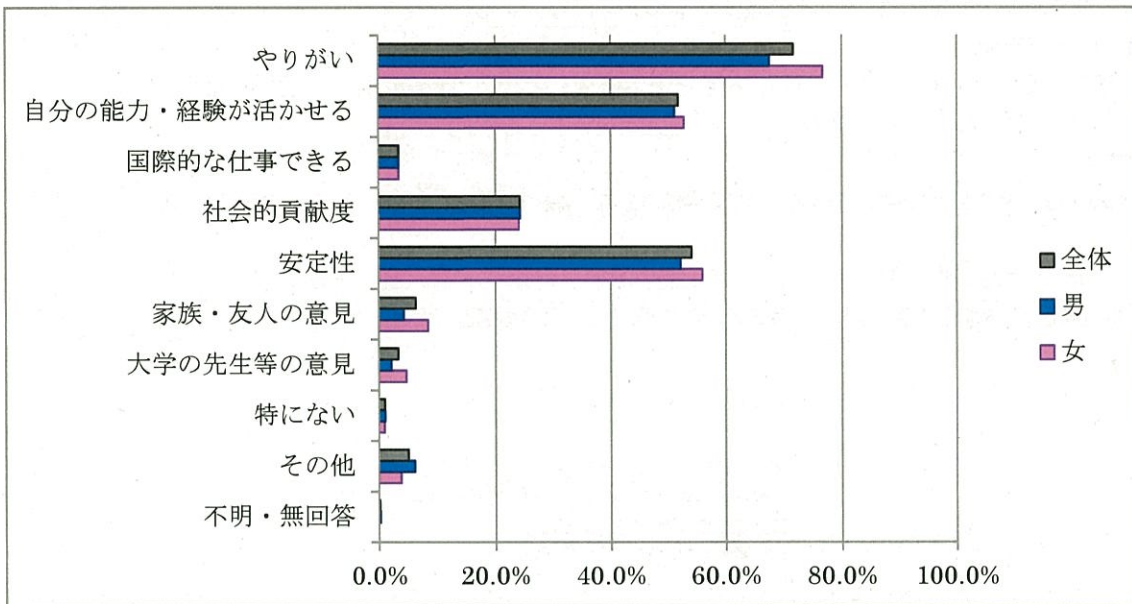
大学生が職業（業種・分野）を選ぶ際に優先すること【学部別】



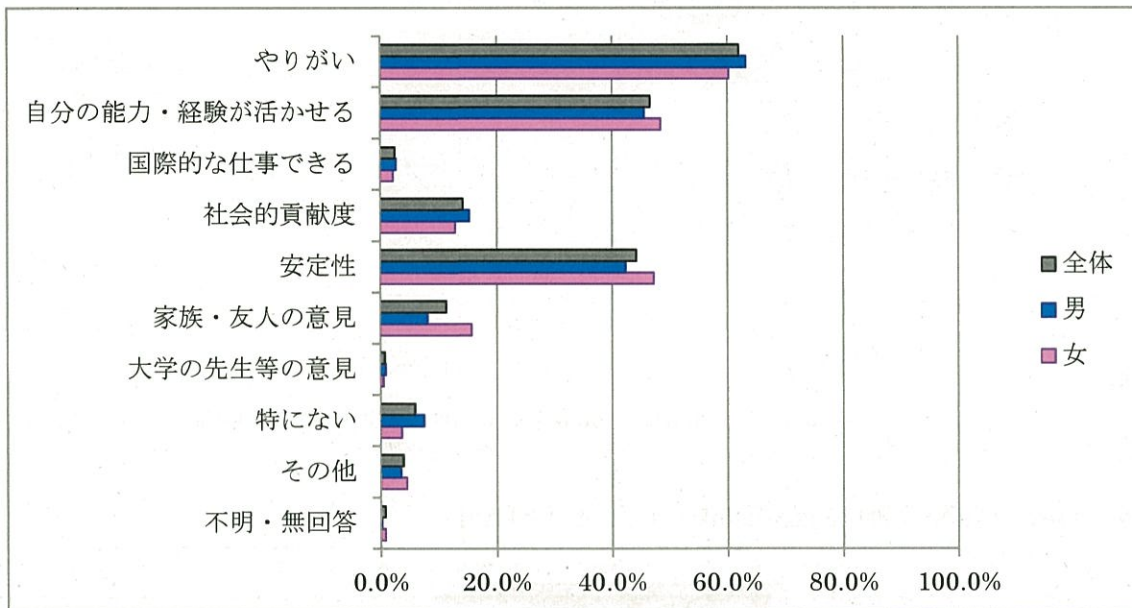
高校生が職業（業種・分野）を選ぶ際に優先すること【学科別】



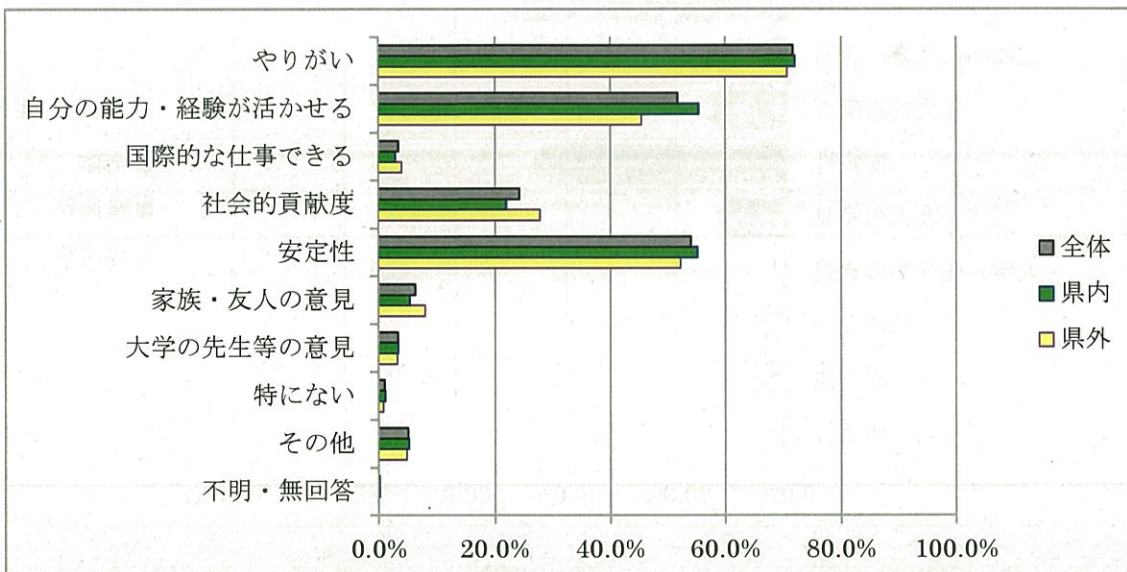
大学生が職業（業種・分野）を選ぶ際に優先すること【性別】



高校生が職業（業種・分野）を選ぶ際に優先すること【性別】



大学生が職業（業種・分野）を選ぶ際に優先すること【出身地別】



■学生ニーズ〔志望の業種〕

大学生 700 名及び高校生 879 名が現在志望する業種を学部・学科別、性別、出身地別（大学生のみ）で比較した。

大学生の学部別では、文系学部では「教育、学習支援」、「サービス業、娯楽業」へ、理工系学部では、「製造業」、「医療、福祉」への志望が多かった。高校生の学科別では目立った違いは見られなかった。

大学生の性別では、男は「製造業」、「情報通信業」へ、女は「医療、福祉」、「教育、学習支援」、「サービス業、娯楽業」への志望が多かった。高校生の性別では、男は「製造業」へ、女は「サービス業、娯楽業」への志望が多かった。

大学生の出身地別では、県内が「製造業」へ、県外が「医療、福祉」への志望が多かった。

大学生では、大学での専攻による傾向が表れていると思われる。

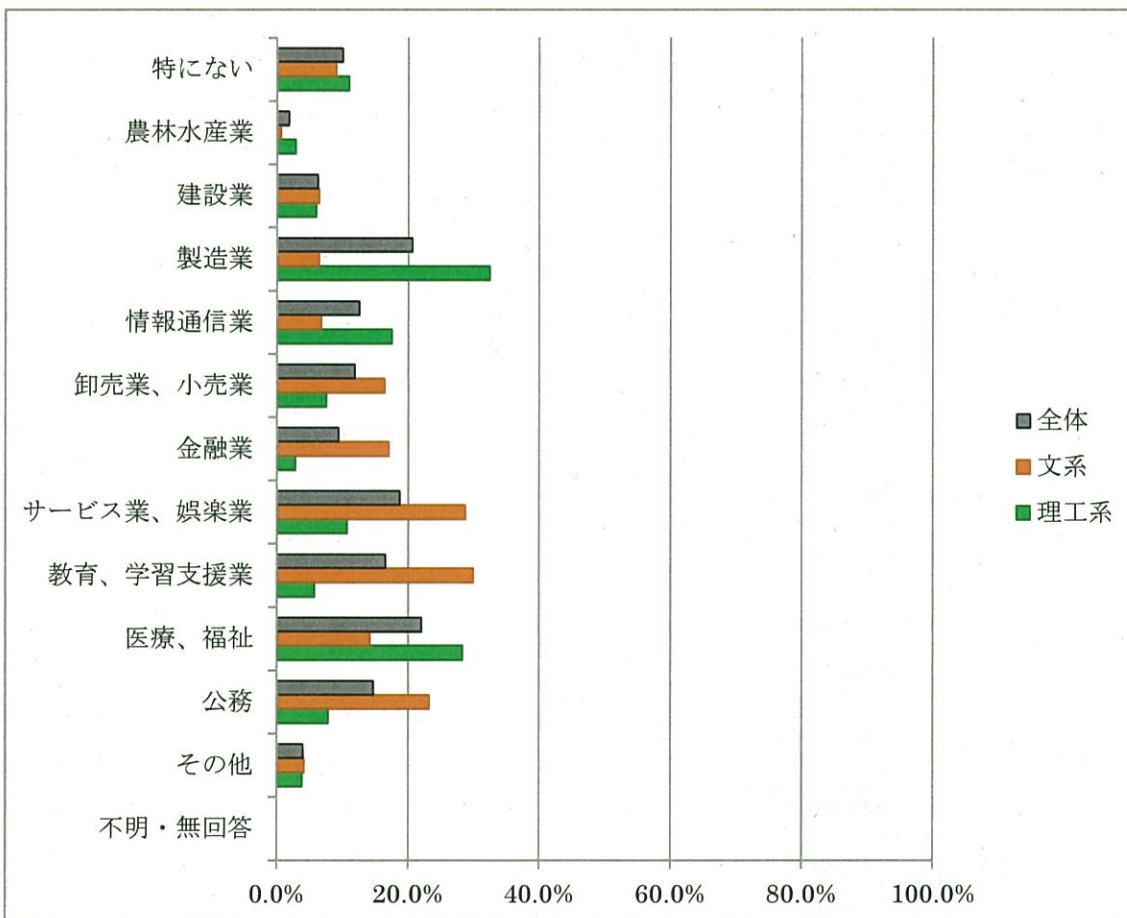
※グラフ

・学部別では、大学生は文系学部 310 名、理工系学部 382 名、高校生は普通科 375 名、専門科 502 名を 100 とした場合の割合

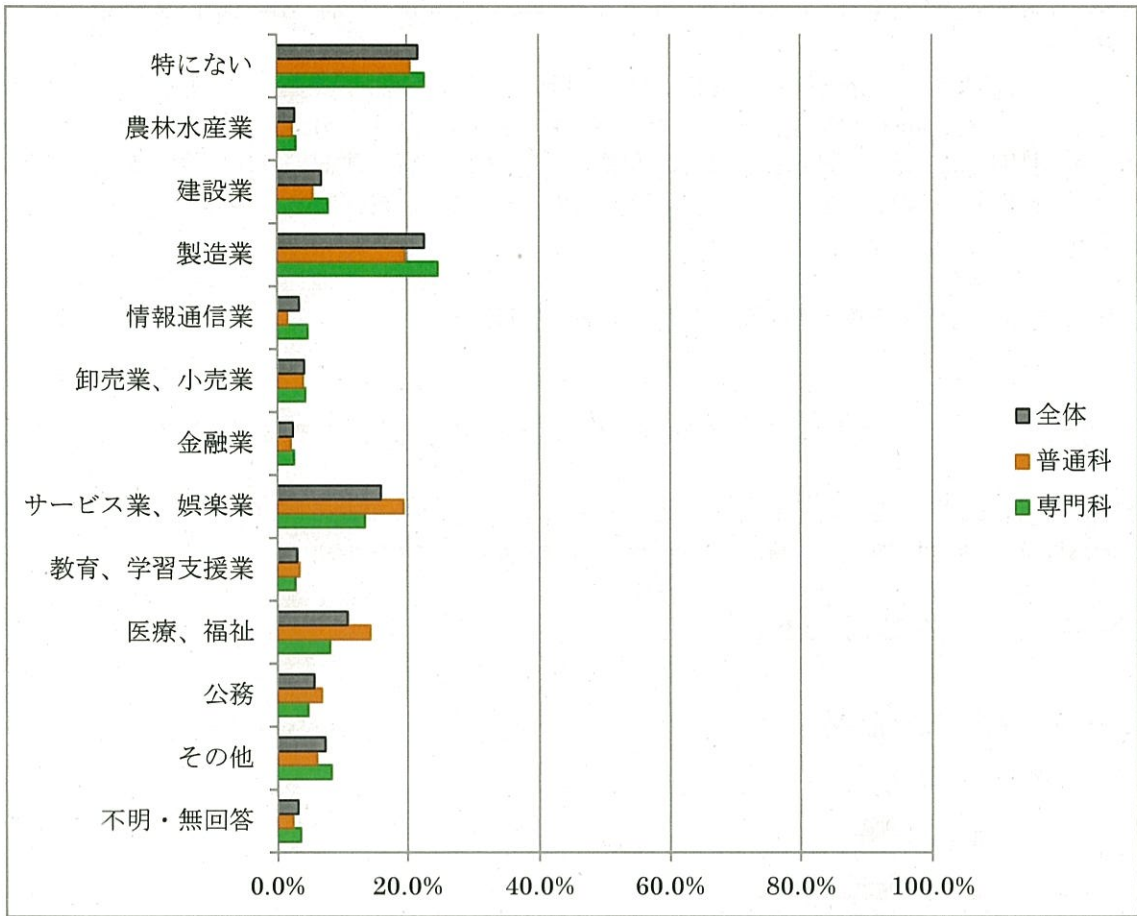
・性別では、大学生は男 377 名、女 319 名、高校生は男 516 名、女 356 名を 100 とした場合の割合

・出身地別では、大学生は県内 445 名、県外 250 名を 100 とした場合の割合（大学生のみ）

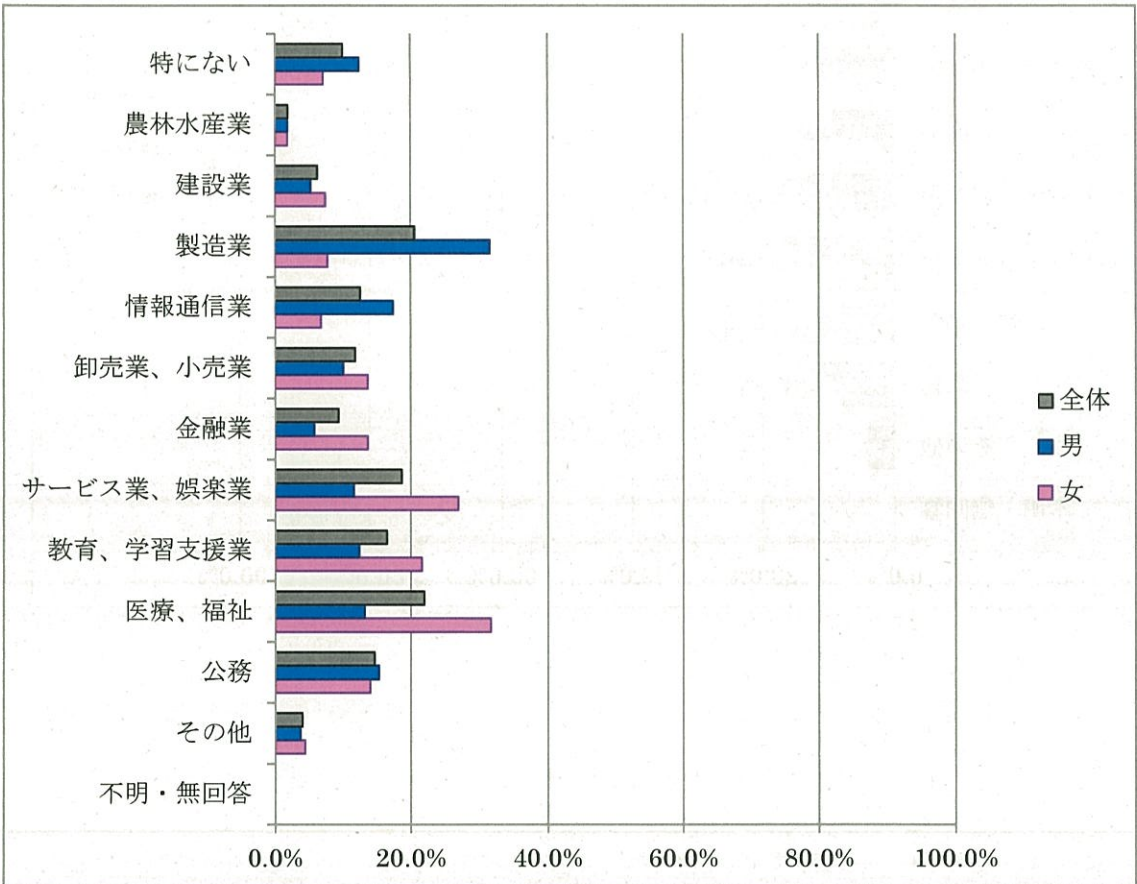
大学生が現在志望する業種【学部別】



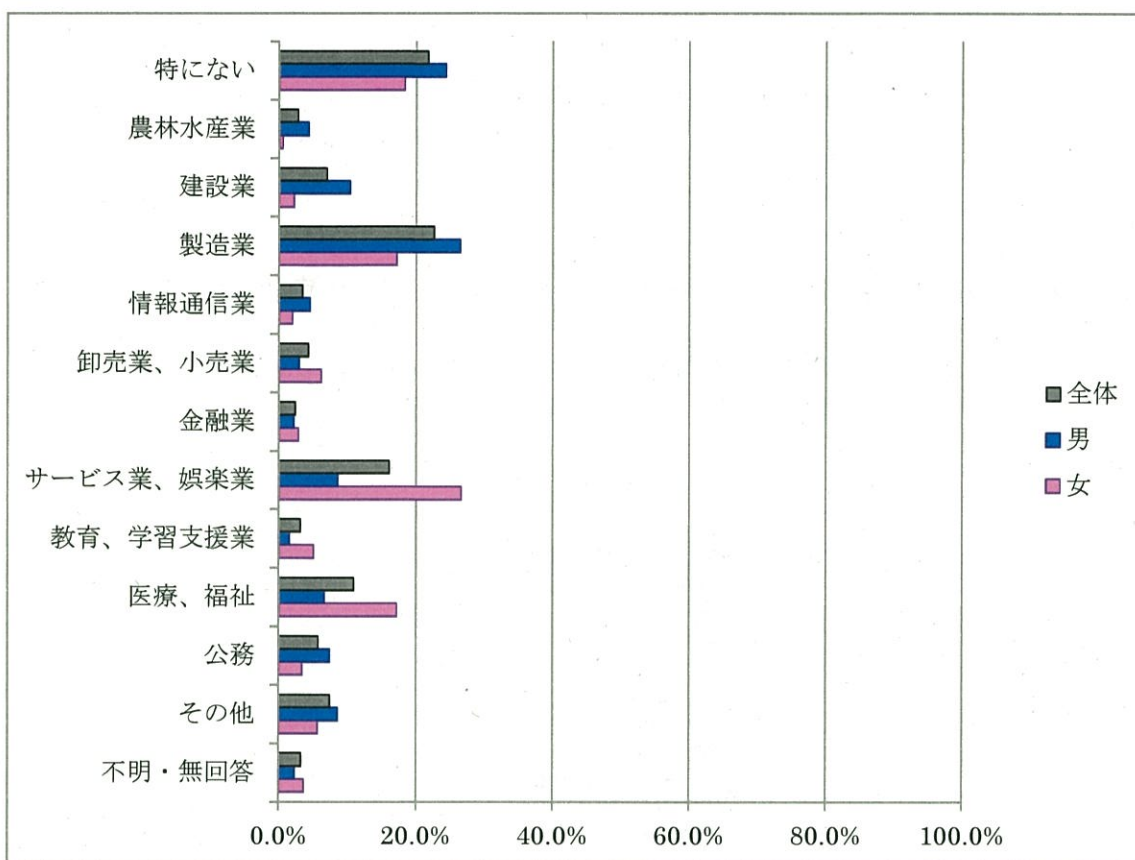
高校生が現在志望する業種【学科別】



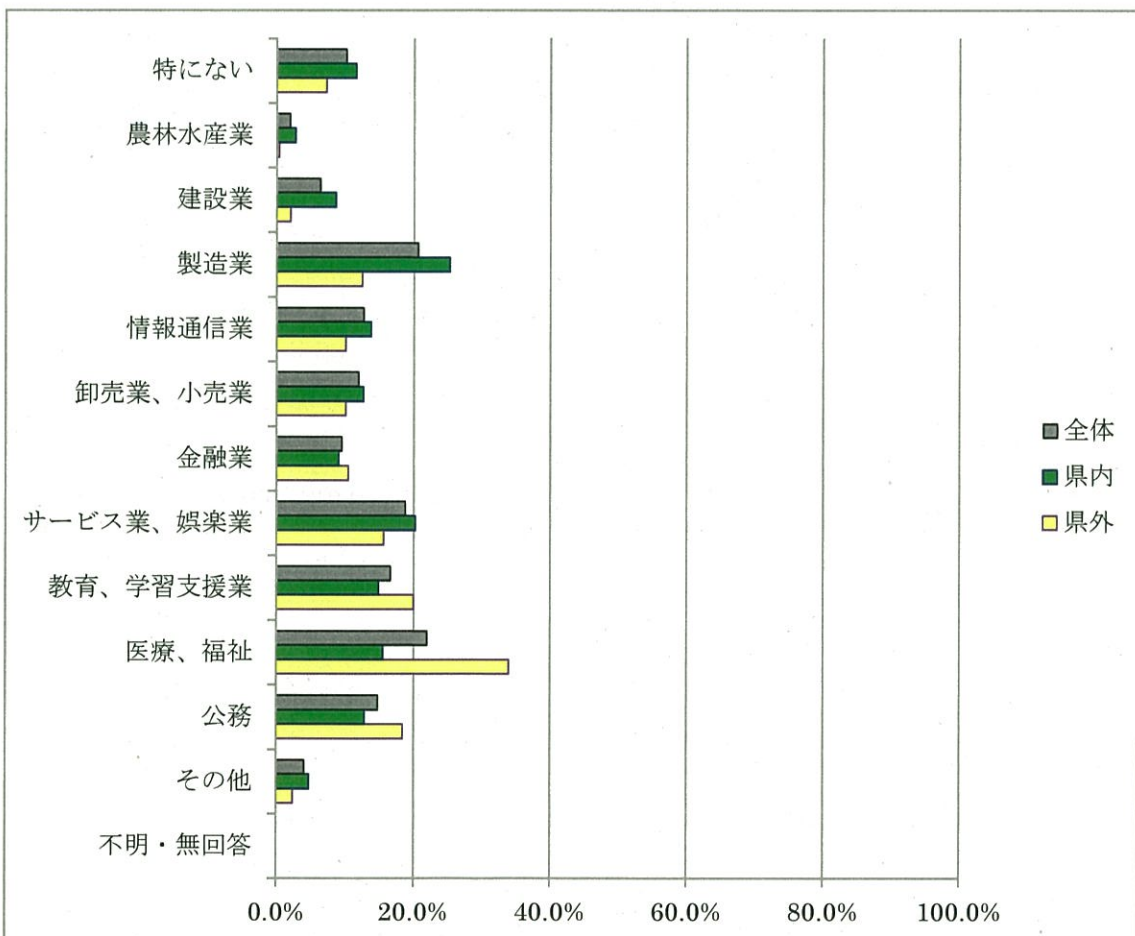
大学生が現在志望する業種【性別】



高校生が現在志望する業種【性別】



大学生が現在志望する業種【出身地別】



■学生ニーズ〔就職先（企業等）を選ぶ際に優先すること〕

大学生 700 名及び高校生 879 名が現在志望する業種を学部・学科別、性別、出身地別（大学生のみ）で比較した。

大学生・高校生ともに、「自分が成長できる」が文学部・学科別、性別、出身地別（大学生のみ）のすべてで最も多かった。大学生では、「勤務地」、「福利厚生・職場環境」が次いで多かった。高校生では、「給与」、「将来性」が次いで多かった。

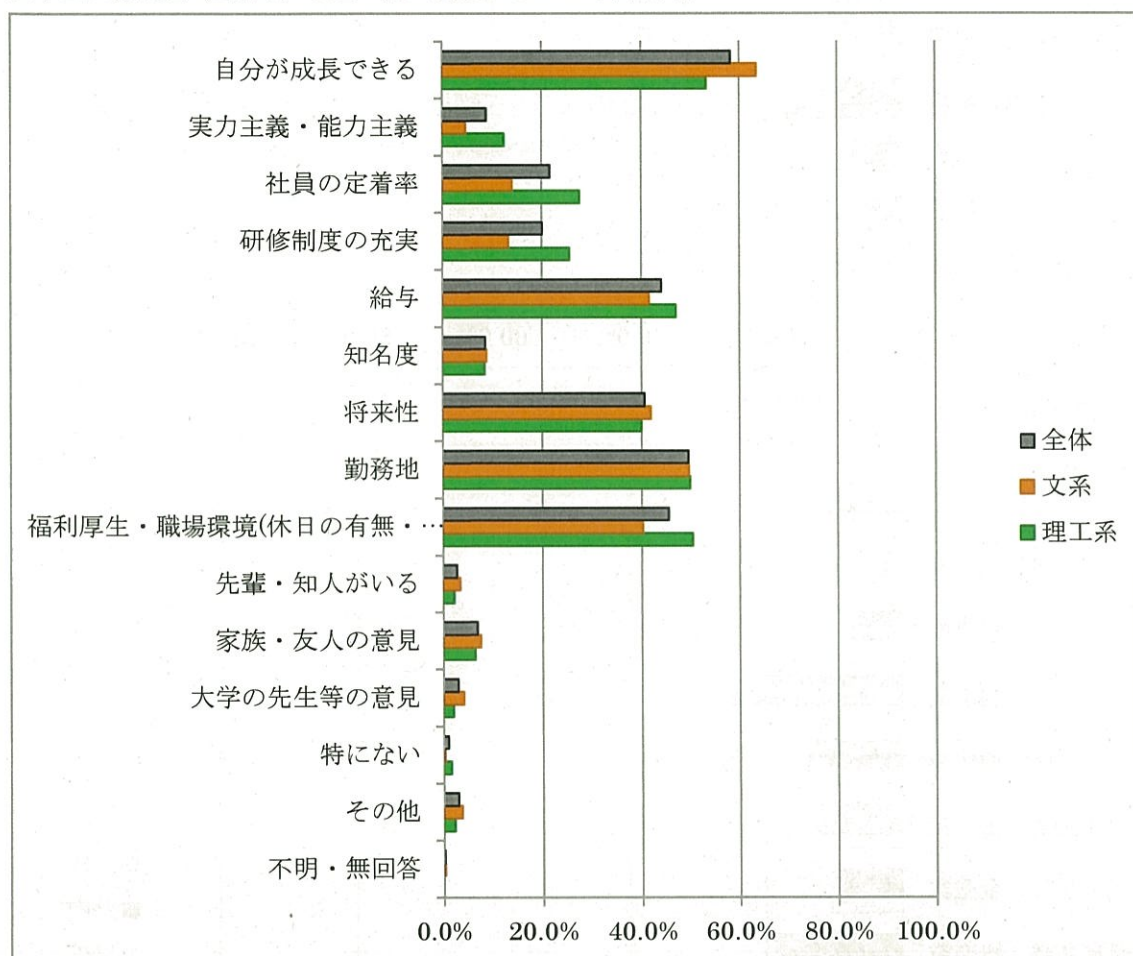
※グラフ

・学部別では、大学生は文系学部 310 名、理工系学部 382 名、高校生は普通科 375 名、専門科 502 名を 100 とした場合の割合

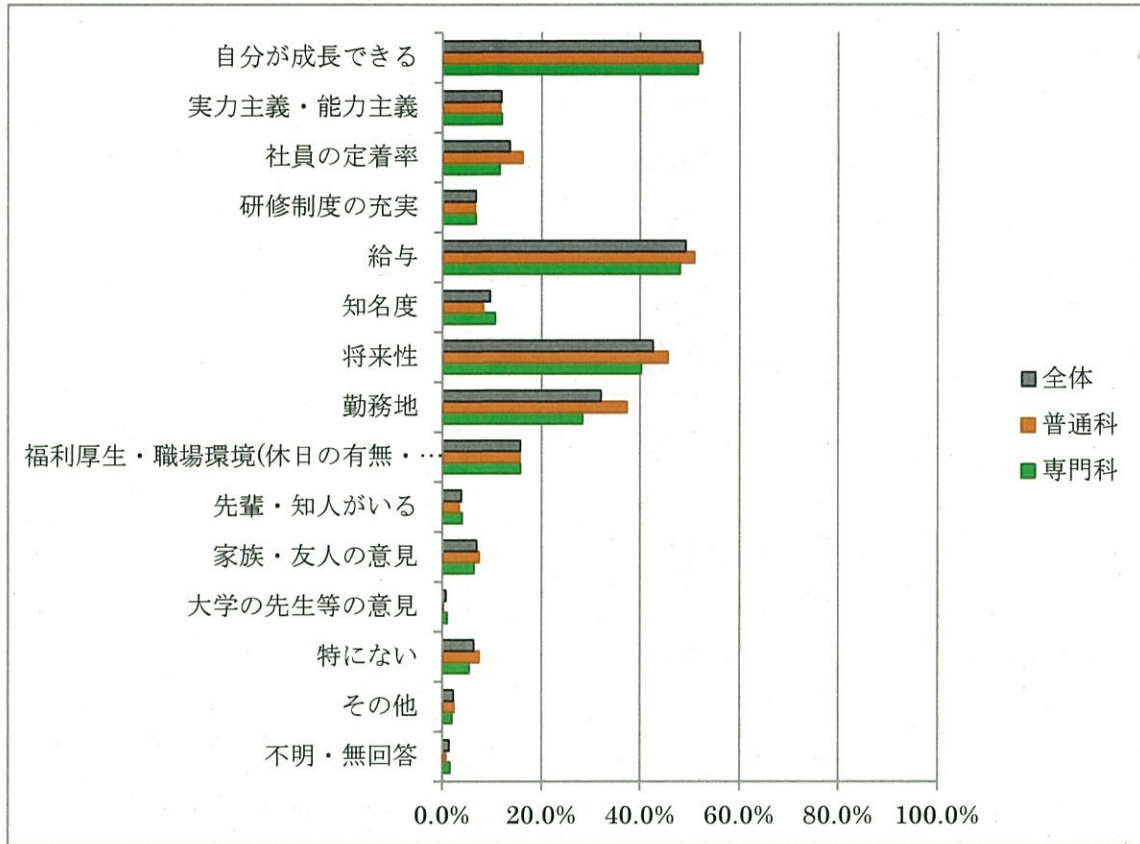
・性別では、大学生は男 377 名、女 319 名、高校生は男 516 名、女 356 名を 100 とした場合の割合

・出身地別では、大学生は県内 445 名、県外 250 名を 100 とした場合の割合（大学生のみ）

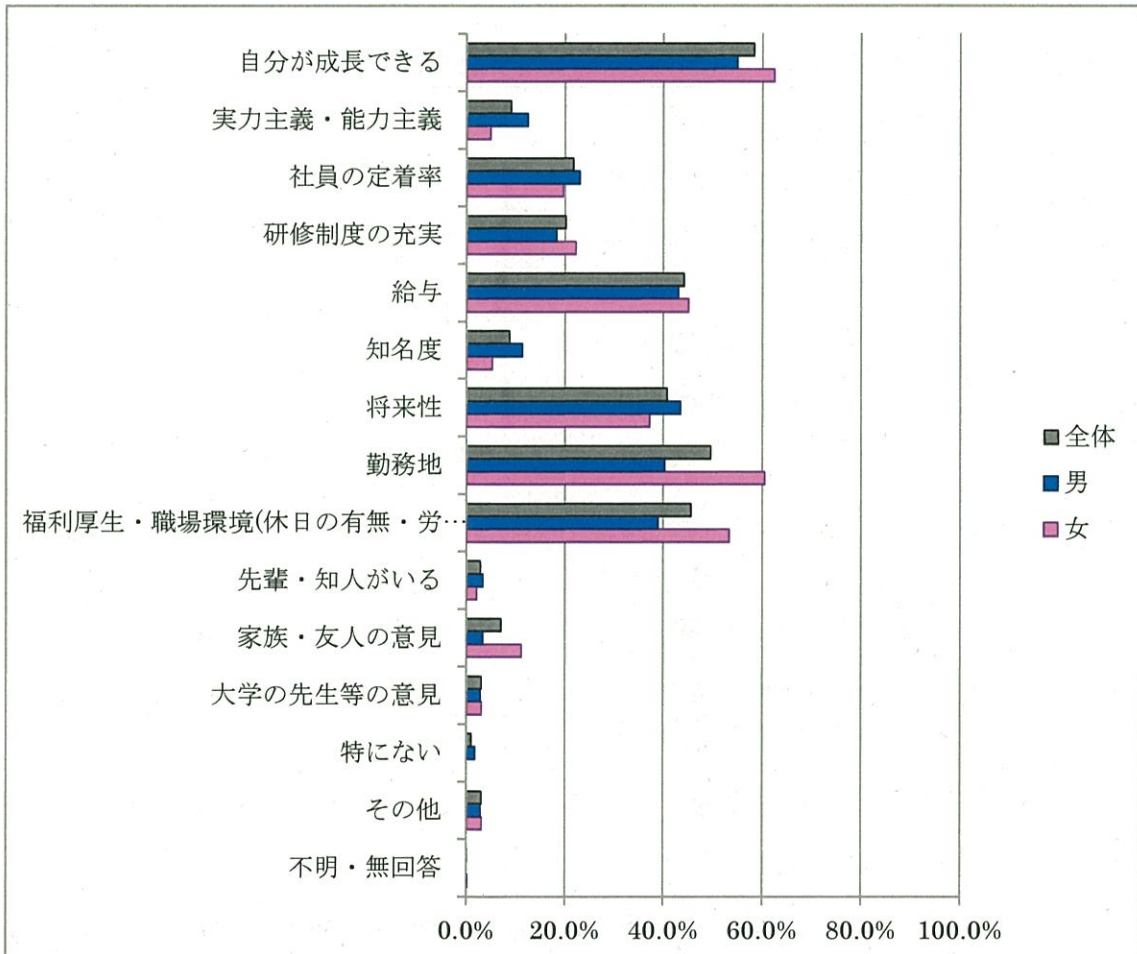
大学生が就職先（企業等）を選ぶ際に優先すること【学部別】



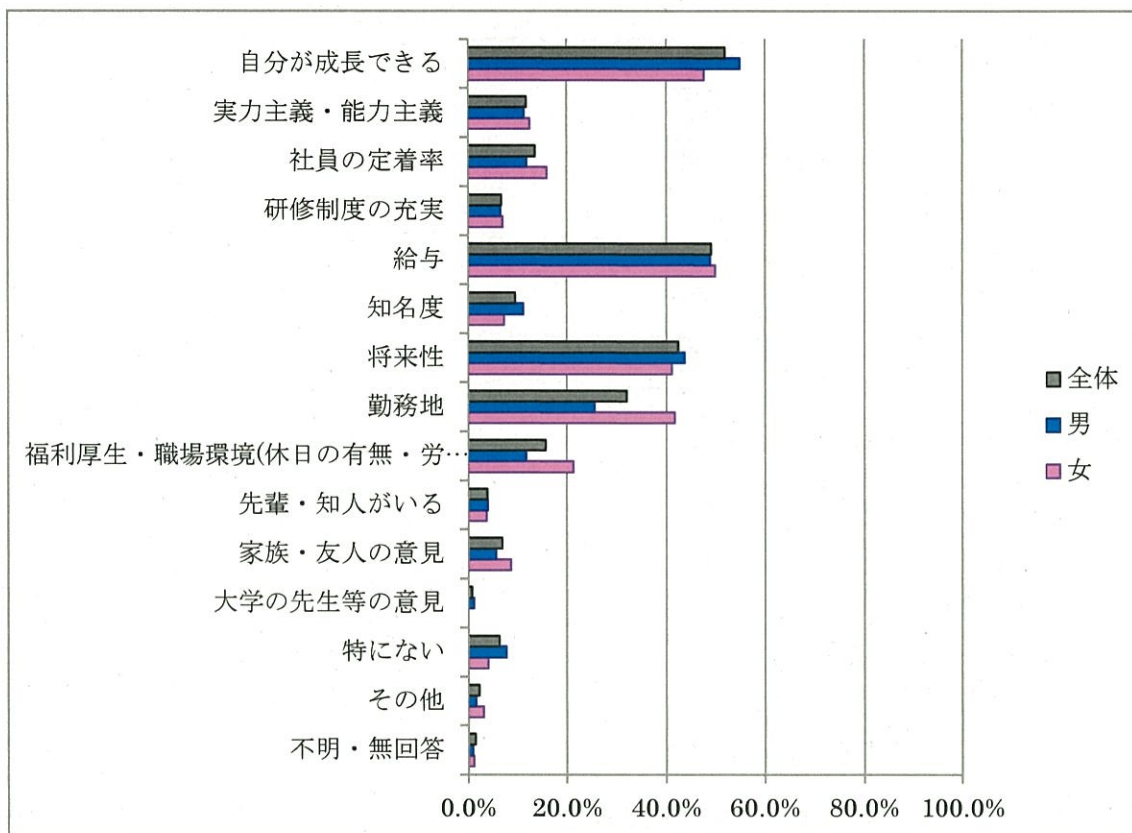
高校生が就職先（企業等）を選ぶ際に優先すること【学科別】



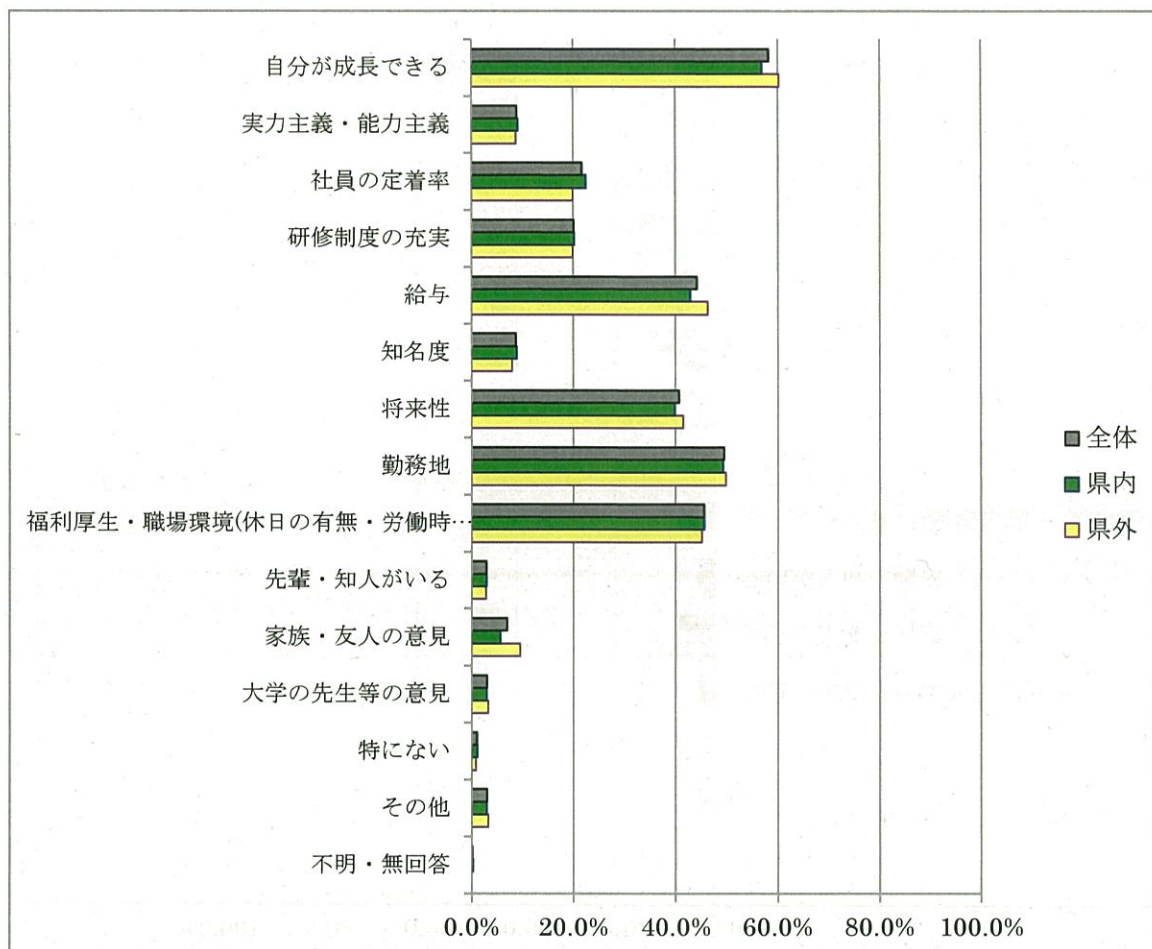
大学生が就職先（企業等）を選ぶ際に優先すること【性別】



高校生が就職先（企業等）を選ぶ際に優先すること【性別】



大学生が就職先（企業等）を選ぶ際に優先すること【出身地別】



■学生ニーズ〔就職先（企業等）で希望する勤務地〕

大学生 700 名及び高校生 879 名が現在志望する業種を学部・学科別、性別、出身地別（大学生のみ）で比較した。

大学生・高校生ともに、県内出身者は「宮城県内」が最も多かった。「宮城県内」を希望者としては、高校生が全体的に高く、性別では女性が多かった。

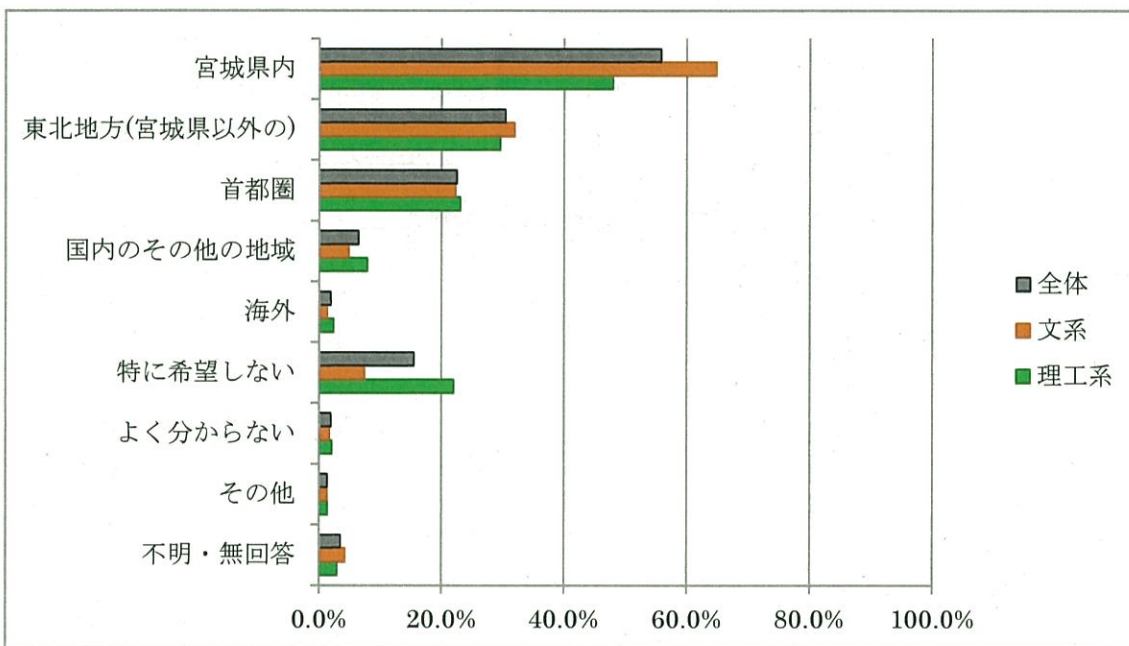
※グラフ

・学部別では、大学生は文系学部 310 名、理工系学部 382 名、高校生は普通科 375 名、専門科 502 名を 100 とした場合の割合

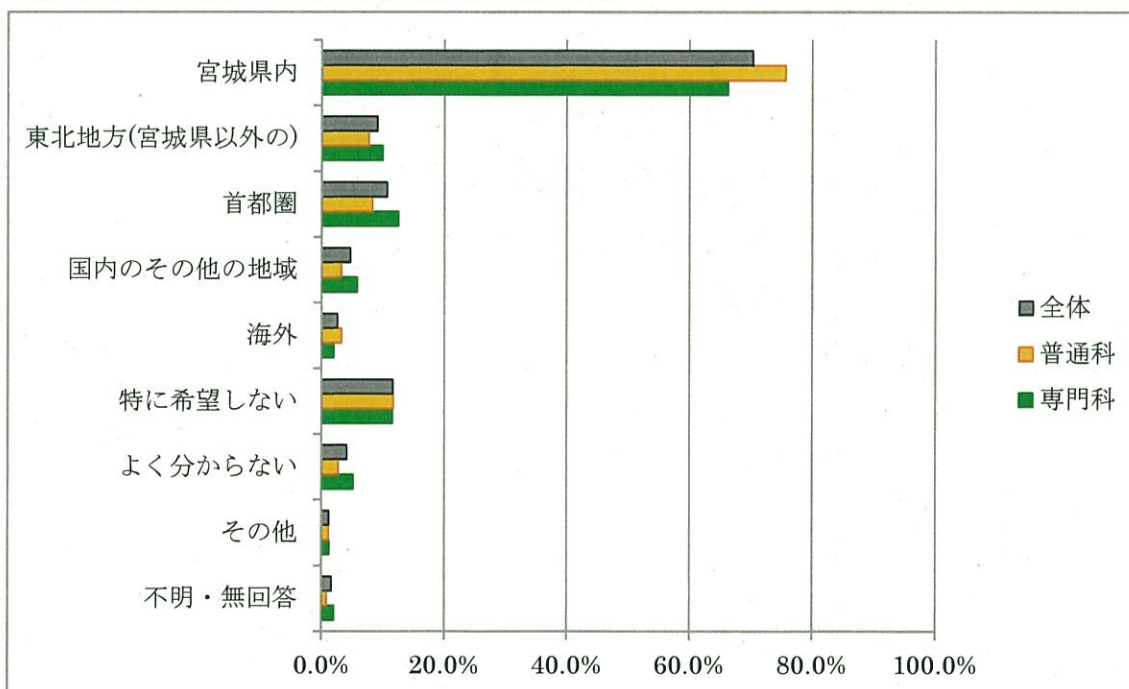
・性別では、大学生は男 377 名、女 319 名、高校生は男 516 名、女 356 名を 100 とした場合の割合

・出身地別では、大学生は県内 445 名、県外 250 名を 100 とした場合の割合（大学生のみ）

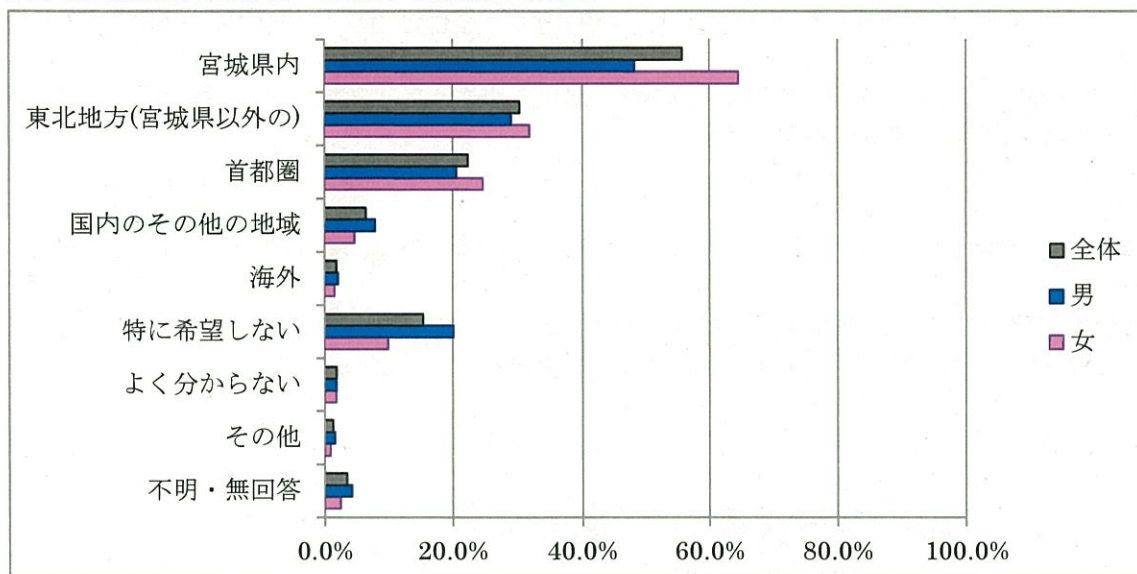
大学生が就職先（企業等）で希望する勤務地【学部別】



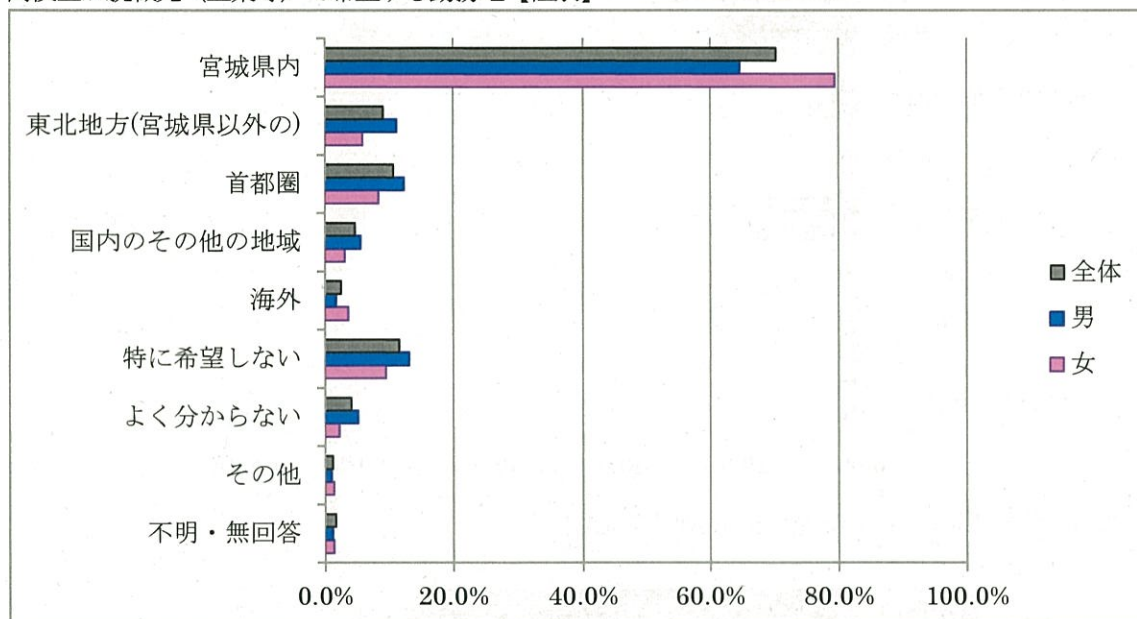
高校生が就職先（企業等）で希望する勤務地【学部別】



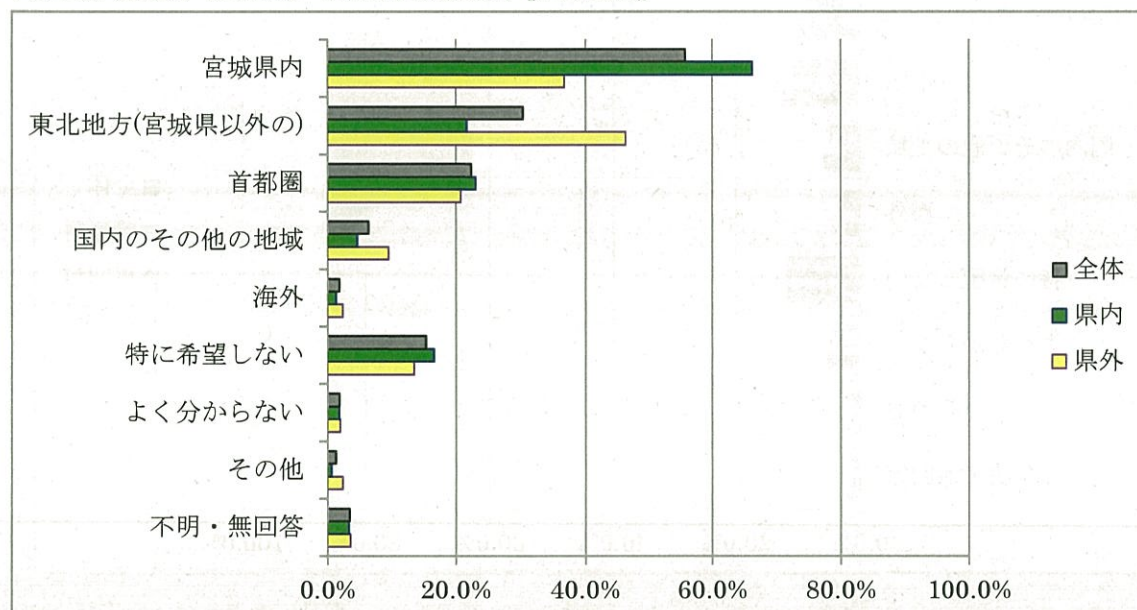
大学生が就職先（企業等）で希望する勤務地【性別】



高校生が就職先（企業等）で希望する勤務地【性別】



大学生が就職先（企業等）で希望する勤務地【出身地別】



■学生ニーズ〔仕事（職業・就職先）を選ぶ際の相談先・情報収集先〕

大学生 700 名及び高校生 879 名が現在志望する業種を学部・学科別、性別、出身地別（大学生のみ）で比較した。

大学生・高校生ともに、相談先として、親（父親、母親）が多く、特に「母親」の割合が高かった。また、大学生では、「先輩・友人」の割合も高かった。

大学生・高校生ともに、情報収集先としては、「就職担当課（大学）、進路指導部（高校）」、「インターネット」の割合が高かった。

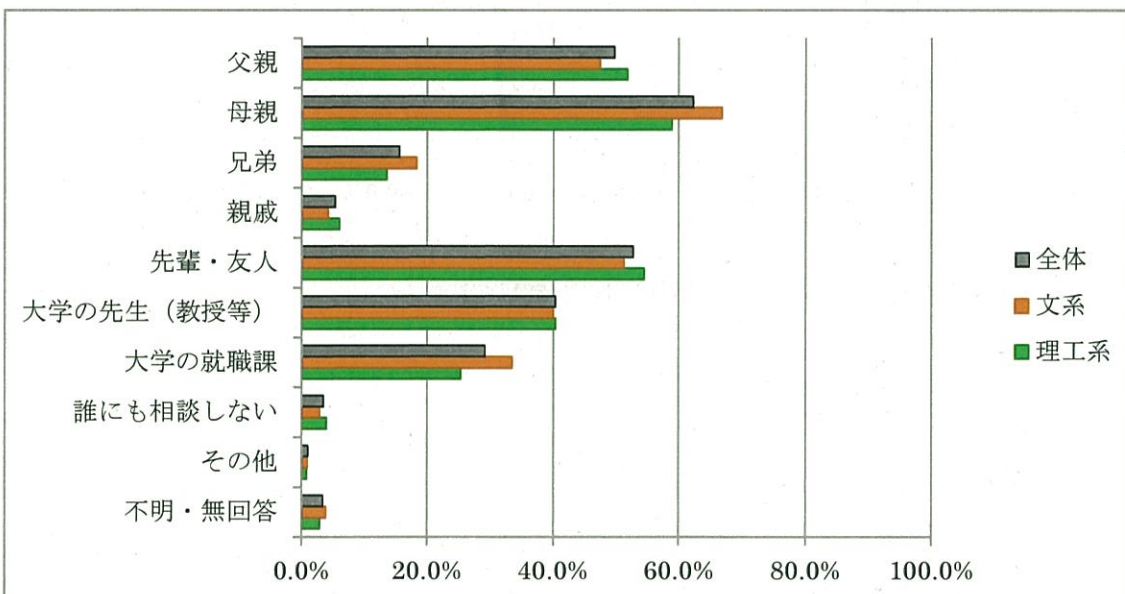
※グラフ

・学部別では、大学生は文系学部 310 名、理工系学部 382 名、高校生は普通科 375 名、専門科 502 名を 100 とした場合の割合

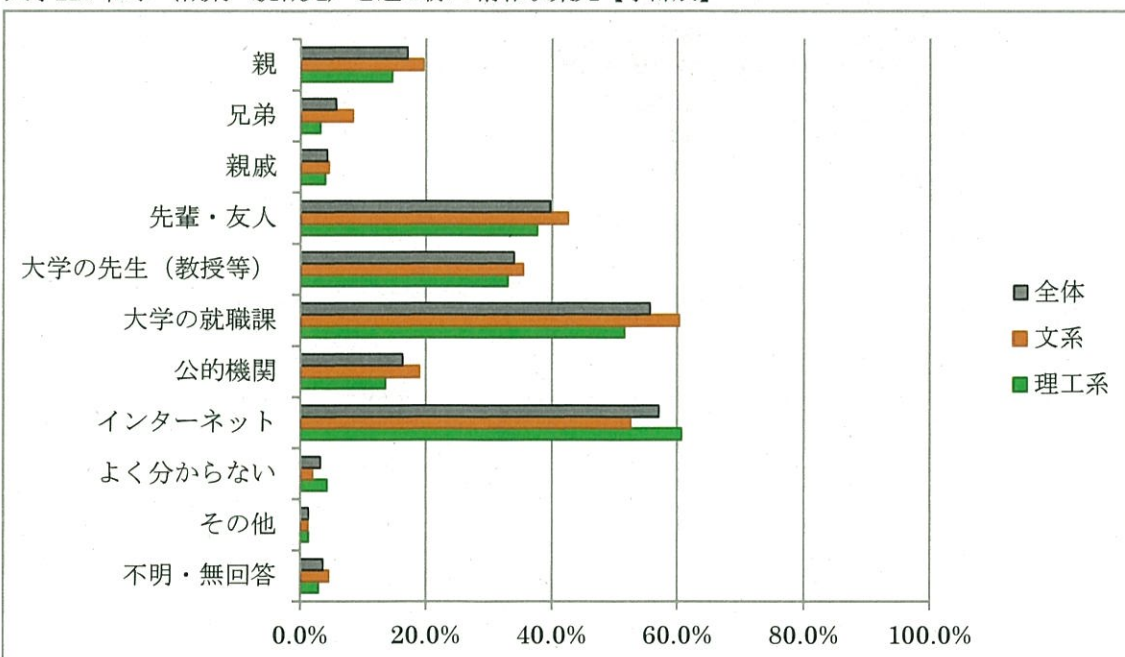
・性別では、大学生は男 377 名、女 319 名、高校生は男 516 名、女 356 名を 100 とした場合の割合

・出身地別では、大学生は県内 445 名、県外 250 名を 100 とした場合の割合（大学生のみ）

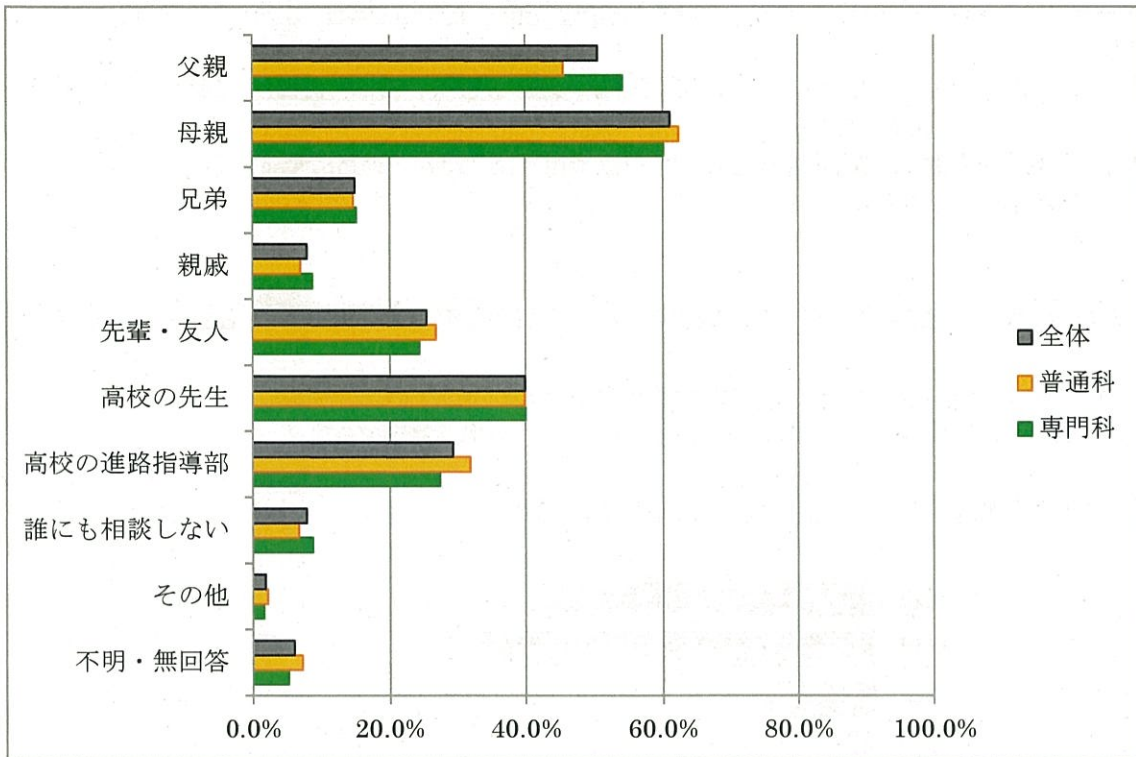
大学生が仕事（職業・就職先）を選ぶ際の相談先【学部別】



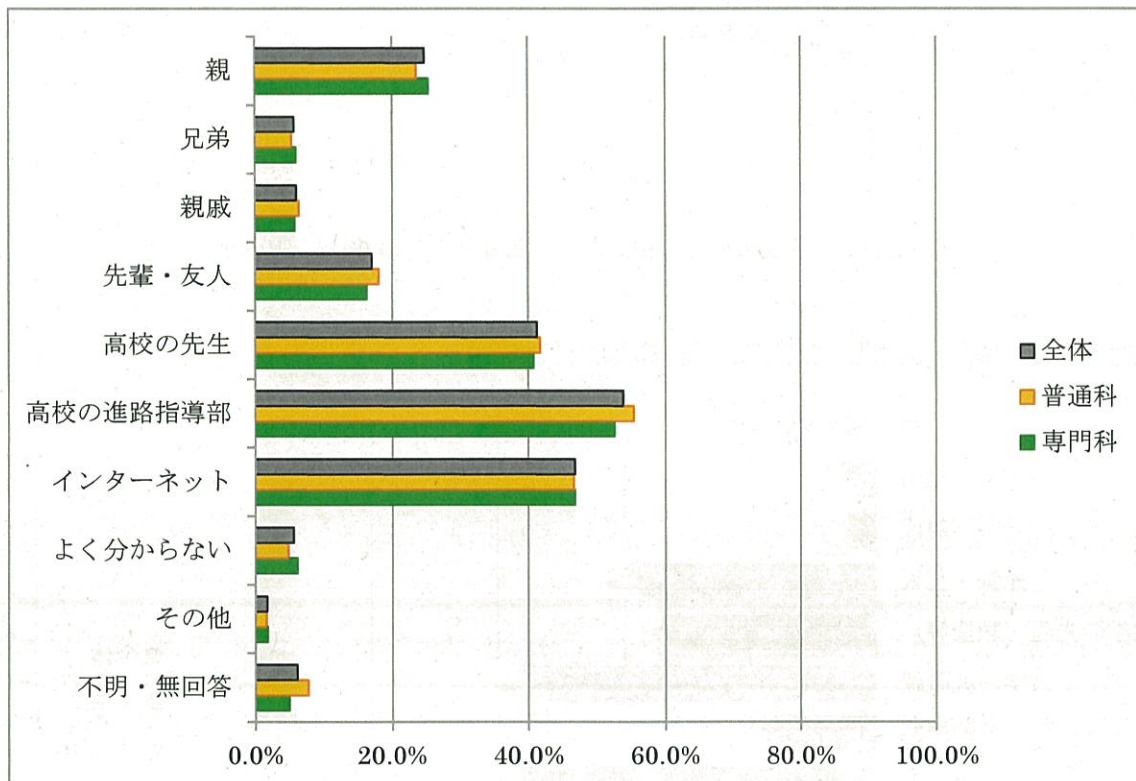
大学生が仕事（職業・就職先）を選ぶ際の情報収集先【学部別】



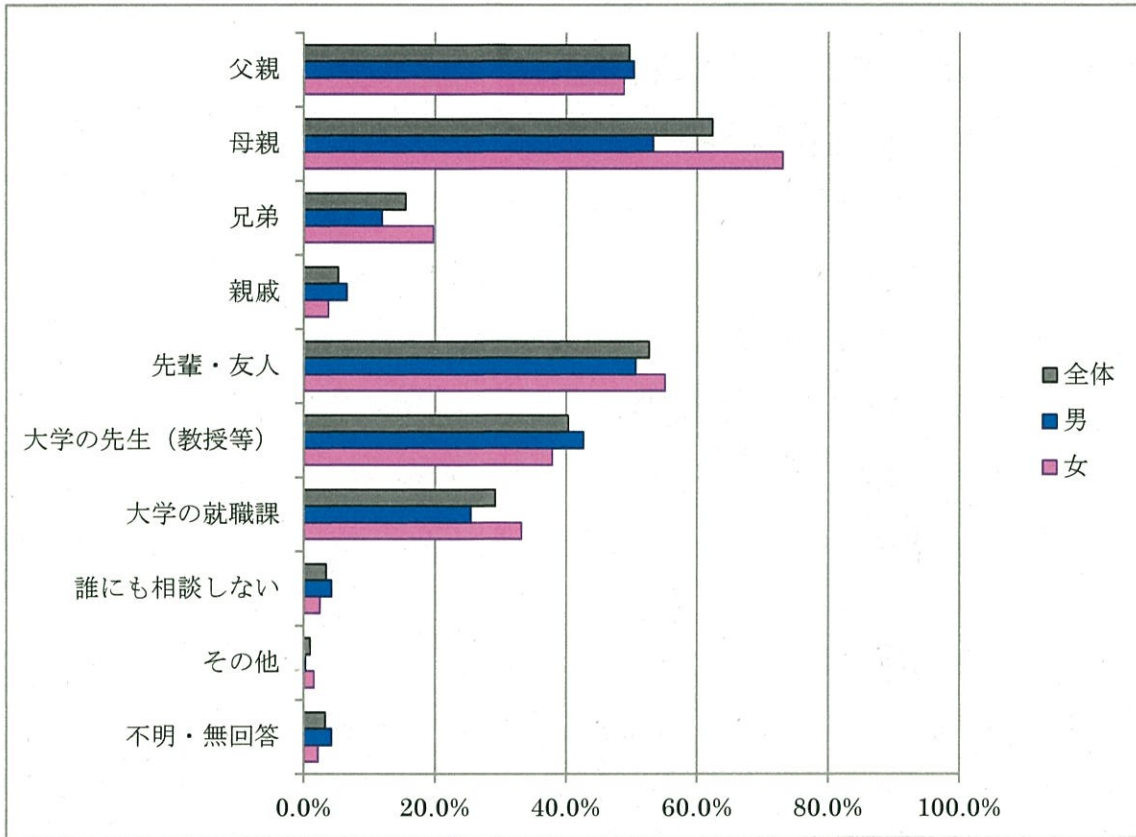
高校生が仕事（職業・就職先）を選ぶ際の相談先【学科別】



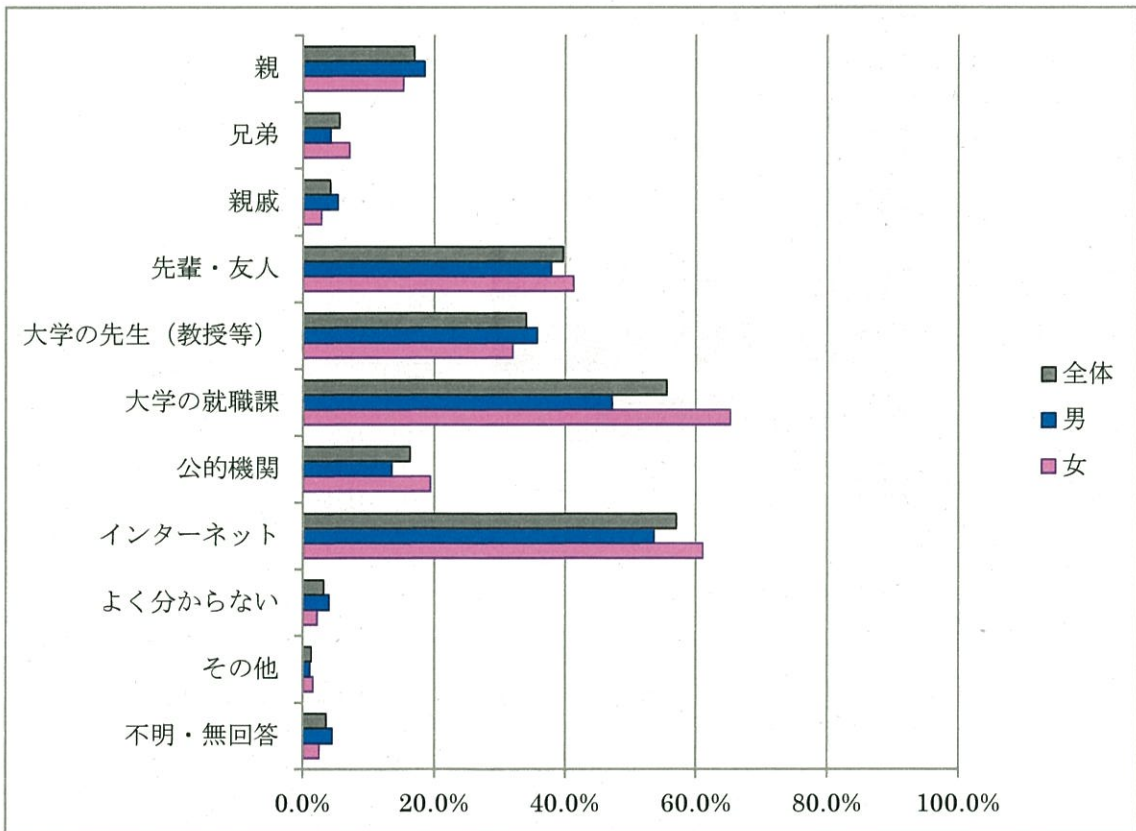
高校生が仕事（職業・就職先）を選ぶ際の情報収集先【学科別】



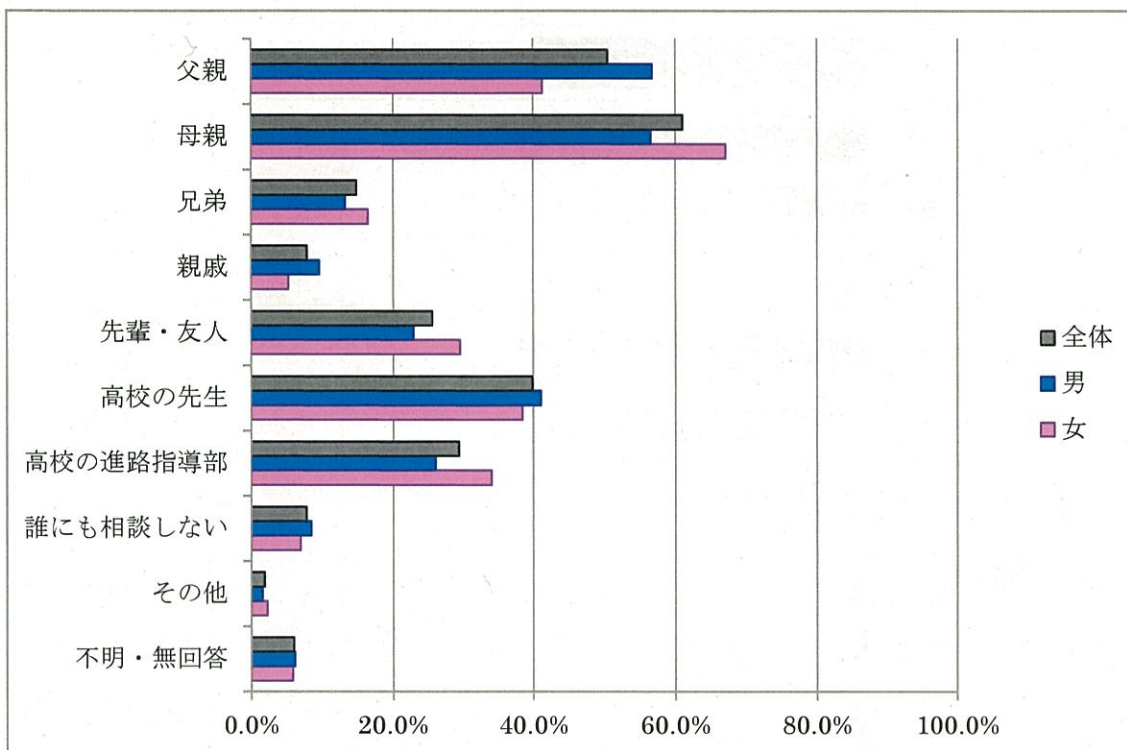
大学生が仕事（職業・就職先）を選ぶ際の相談先【性別】



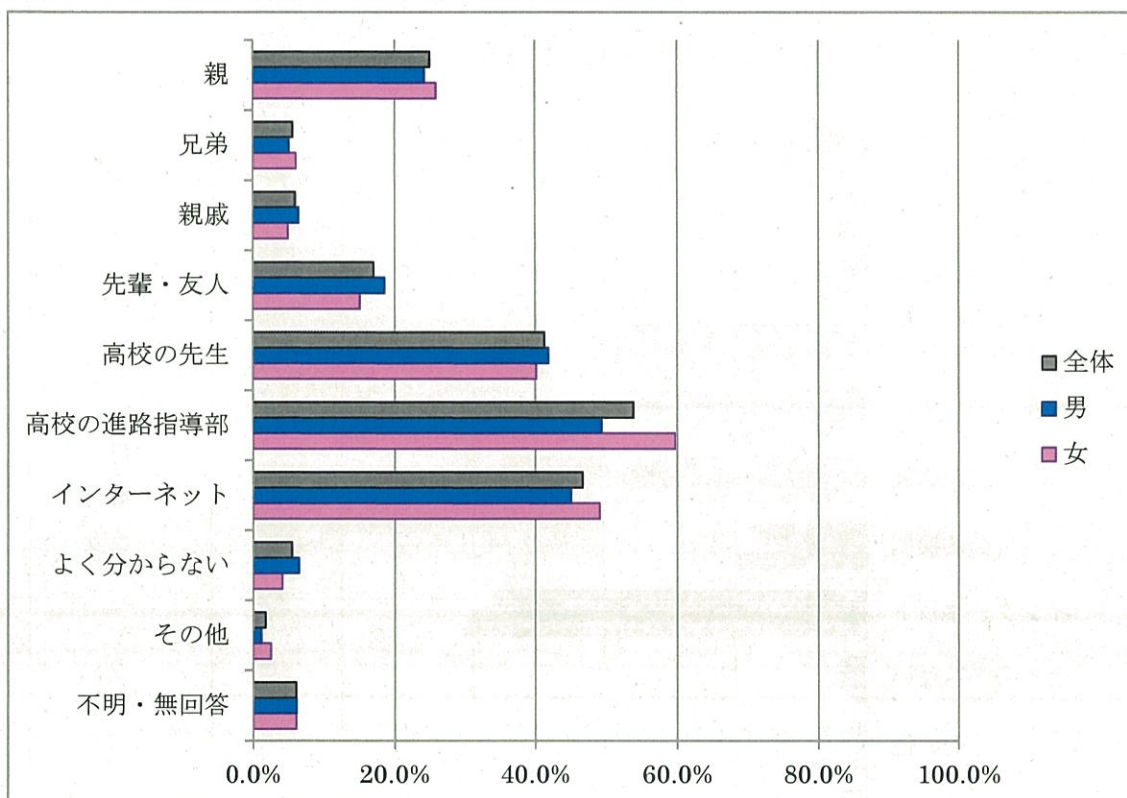
大学生が仕事（職業・就職先）を選ぶ際の情報収集先【性別】



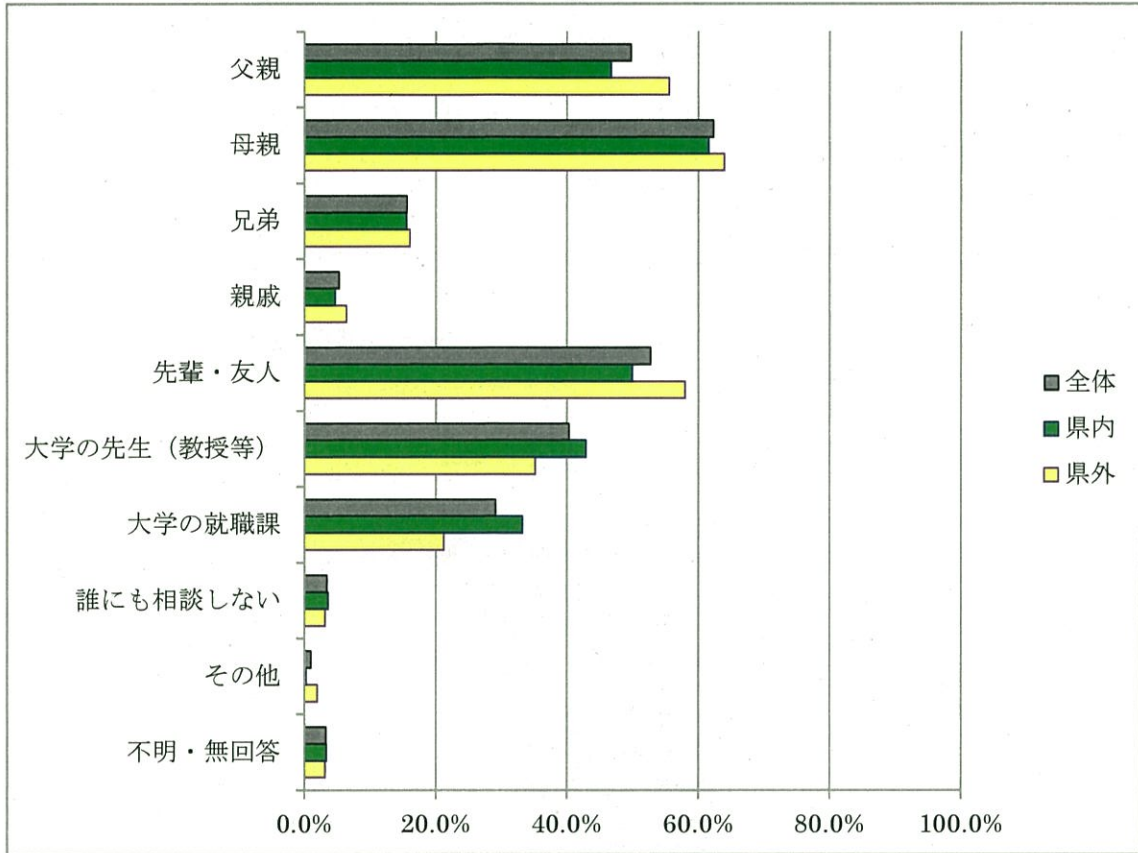
高校生が仕事（職業・就職先）を選ぶ際の相談先【性別】



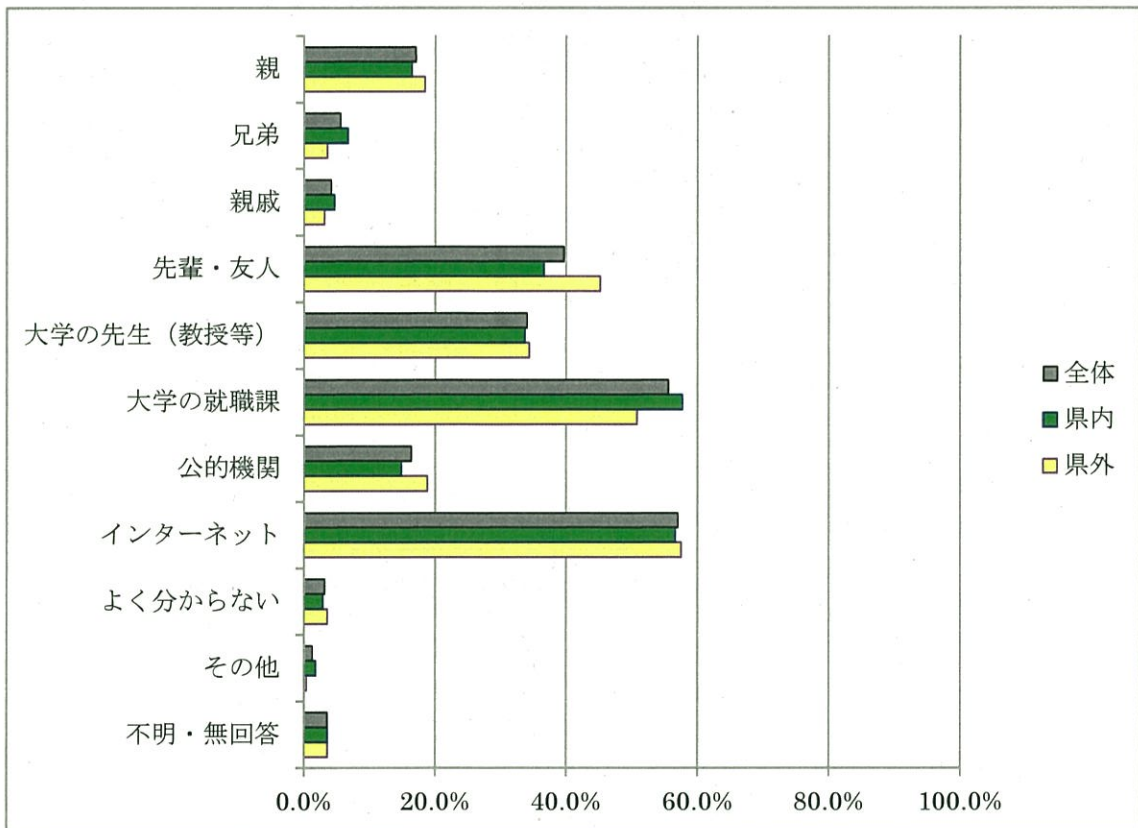
高校生が仕事（職業・就職先）を選ぶ際の情報収集先【性別】



大学生が仕事（職業・就職先）を選ぶ際の相談先【出身地別】



大学生が仕事（職業・就職先）を選ぶ際の情報収集先【出身地別】



■学生ニーズ〔仕事（職業・就職先）を決める際に必要な支援〕

大学生 700 名及び高校生 879 名が現在志望する業種を学部・学科別、性別、出身地別（大学生のみ）で比較した。

大学生では、「就職説明会の開催」、「面接試験対策」が多く、高校生では、「就職説明会の開催」、「企業訪問・見学の支援」が高かった。

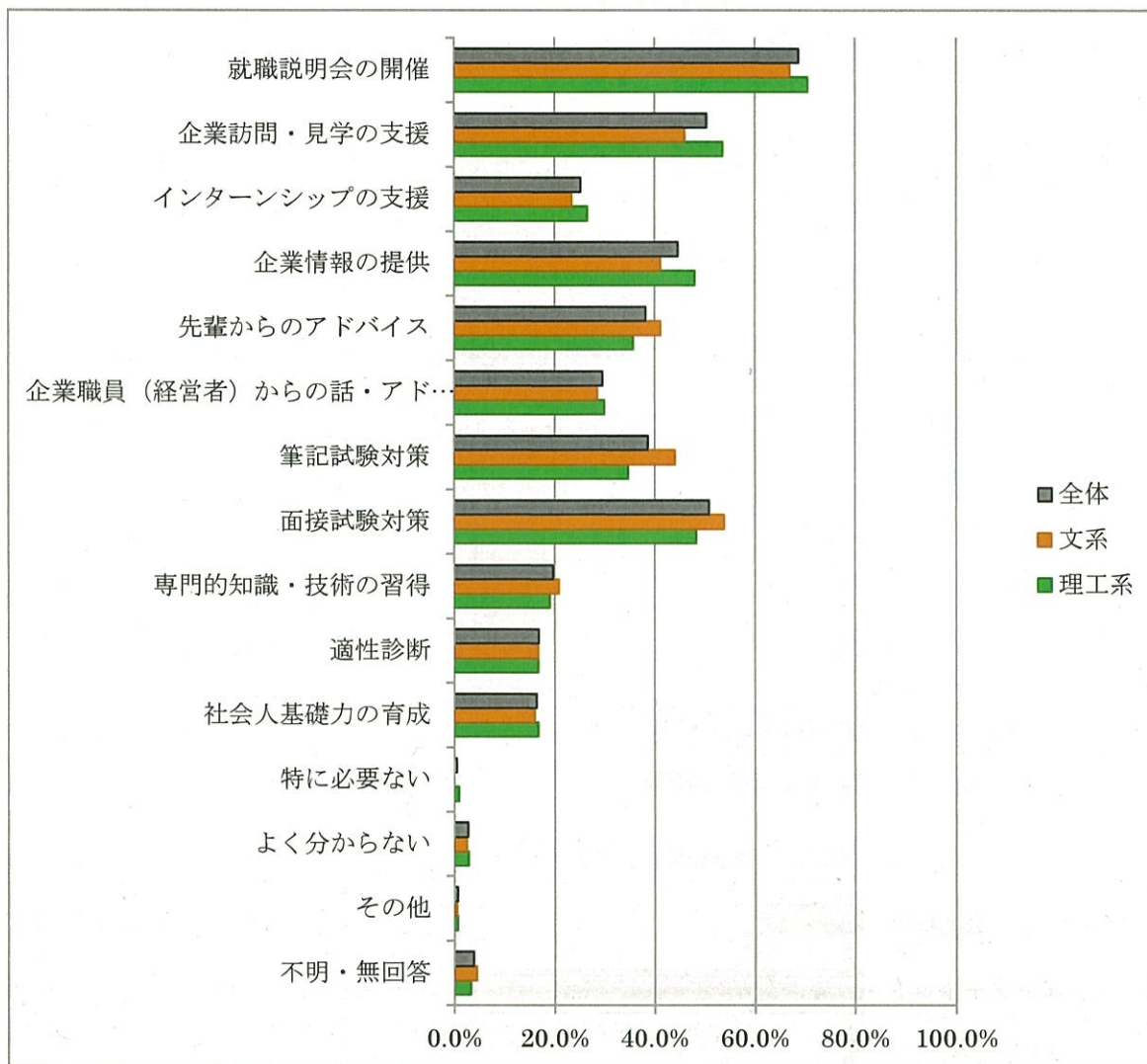
※グラフ

・学部別では、大学生は文系学部 310 名、理工系学部 382 名、高校生は普通科 375 名、専門科 502 名を 100 とした場合の割合

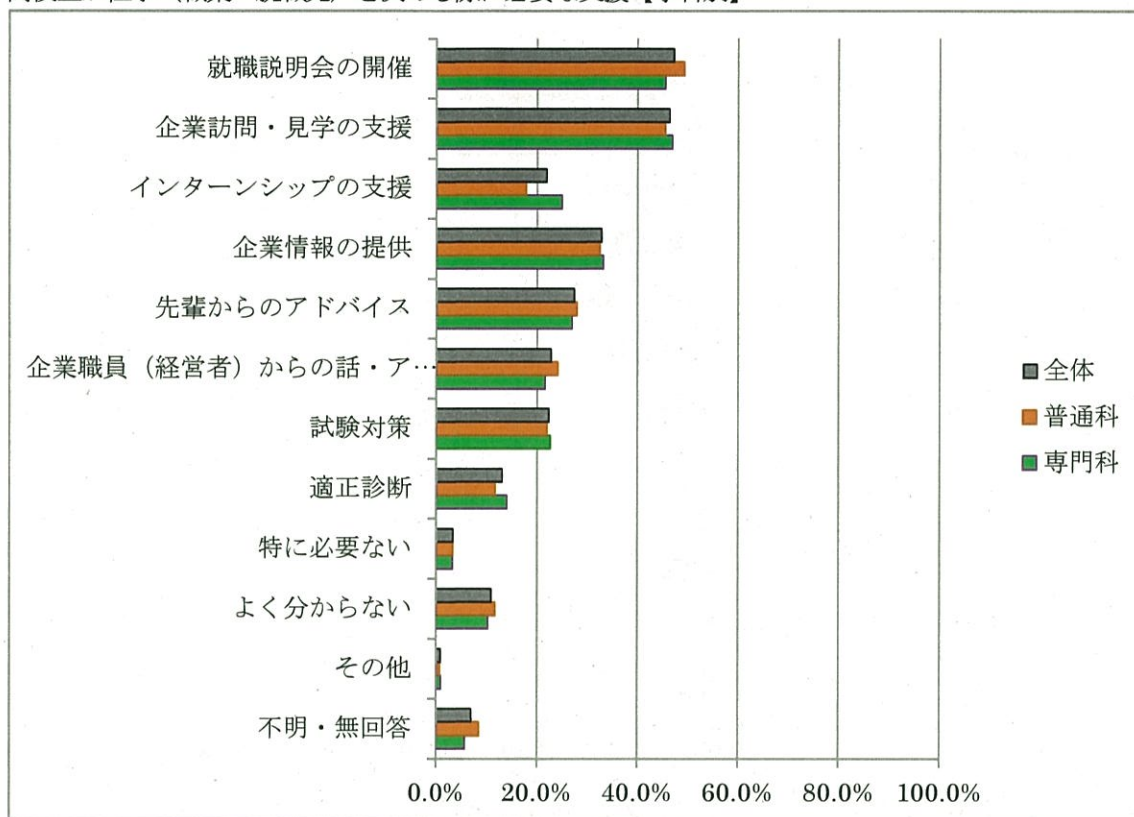
・性別では、大学生は男 377 名、女 319 名、高校生は男 516 名、女 356 名を 100 とした場合の割合

・出身地別では、大学生は県内 445 名、県外 250 名を 100 とした場合の割合（大学生のみ）

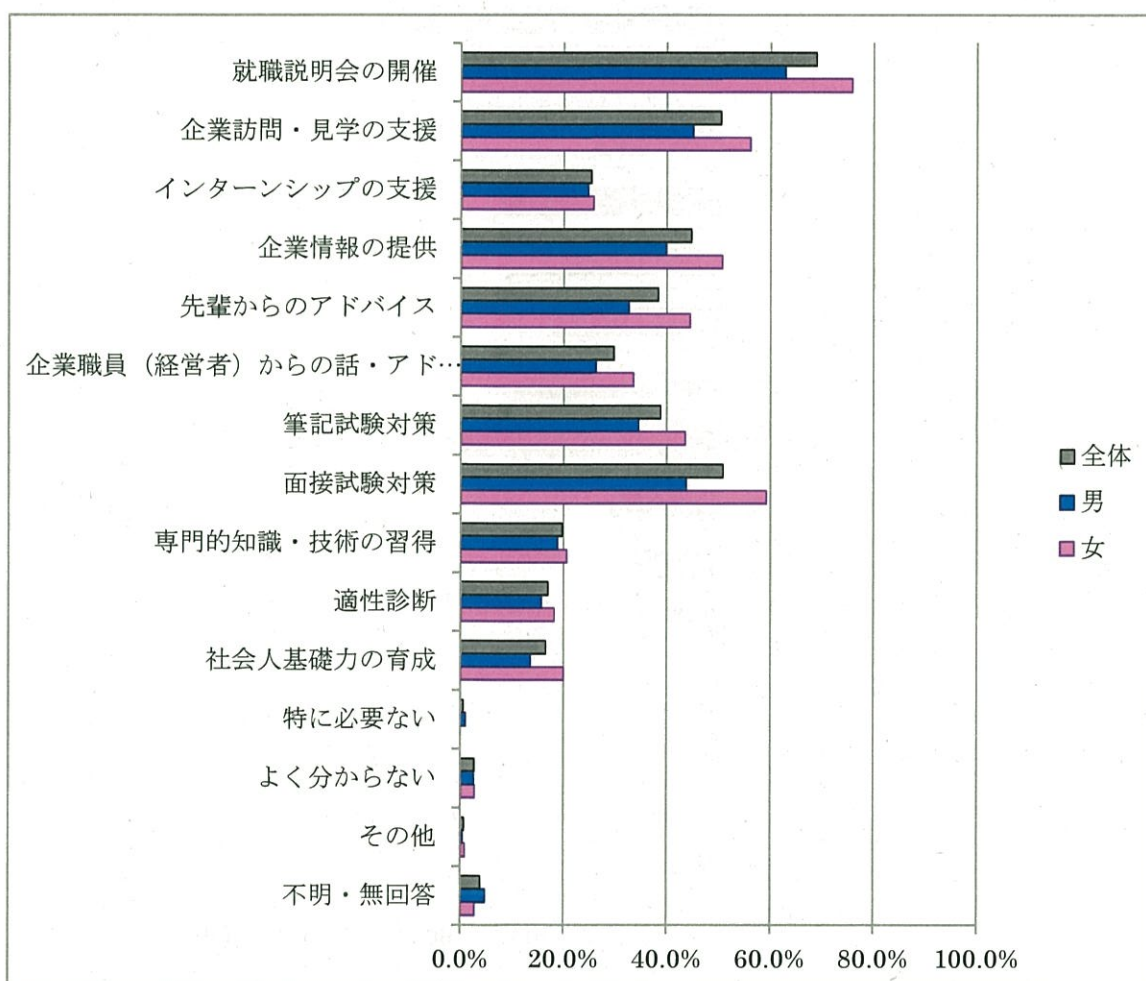
大学生が仕事（職業・就職先）を決める際に必要な支援【学部別】



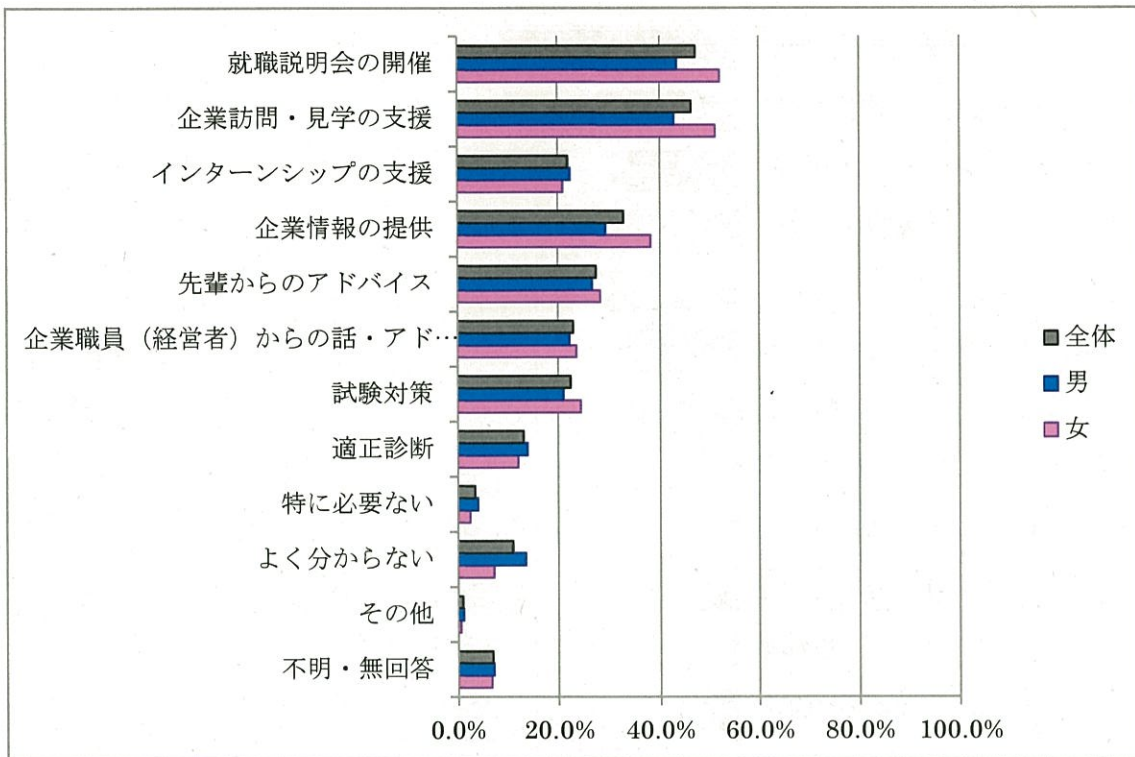
高校生が仕事（職業・就職先）を決める際に必要な支援【学科別】



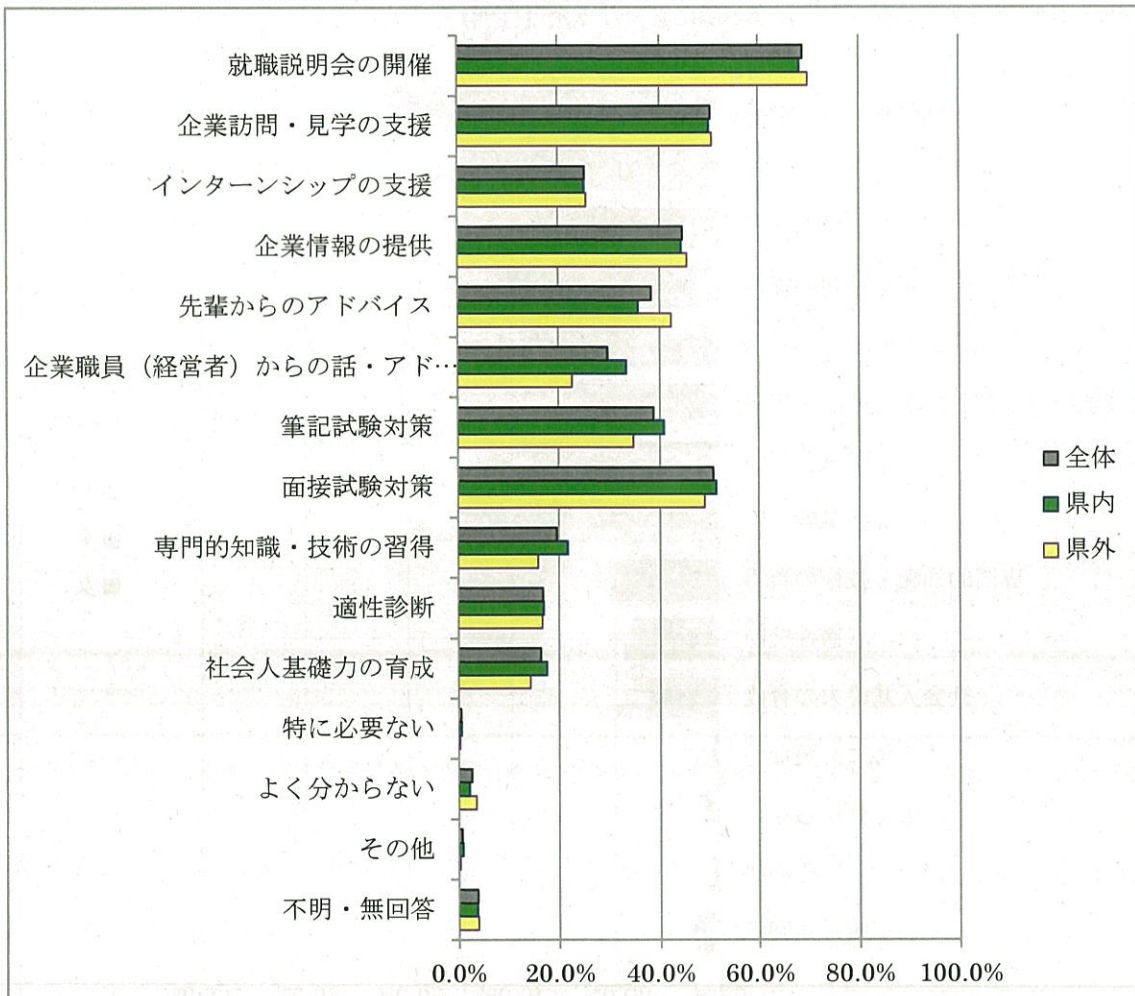
大学生が仕事（職業・就職先）を決める際に必要な支援【性別】



高校生が仕事（職業・就職先）を決める際に必要な支援【性別】



大学生が仕事（職業・就職先）を決める際に必要な支援【出身地別】



■学生ニーズ〔就職活動に不安を抱えていること〕

大学生 700 名及び高校生 879 名が現在志望する業種を学部・学科別、性別、出身地別（大学生のみ）で比較した。

大学生では、「志望企業・業界の求人数（採用枠）」、「試験対策」が多く高校生は「特にない」という回答が多かった。高校生は、進路が決定している者を主に対象としたためと思われる。

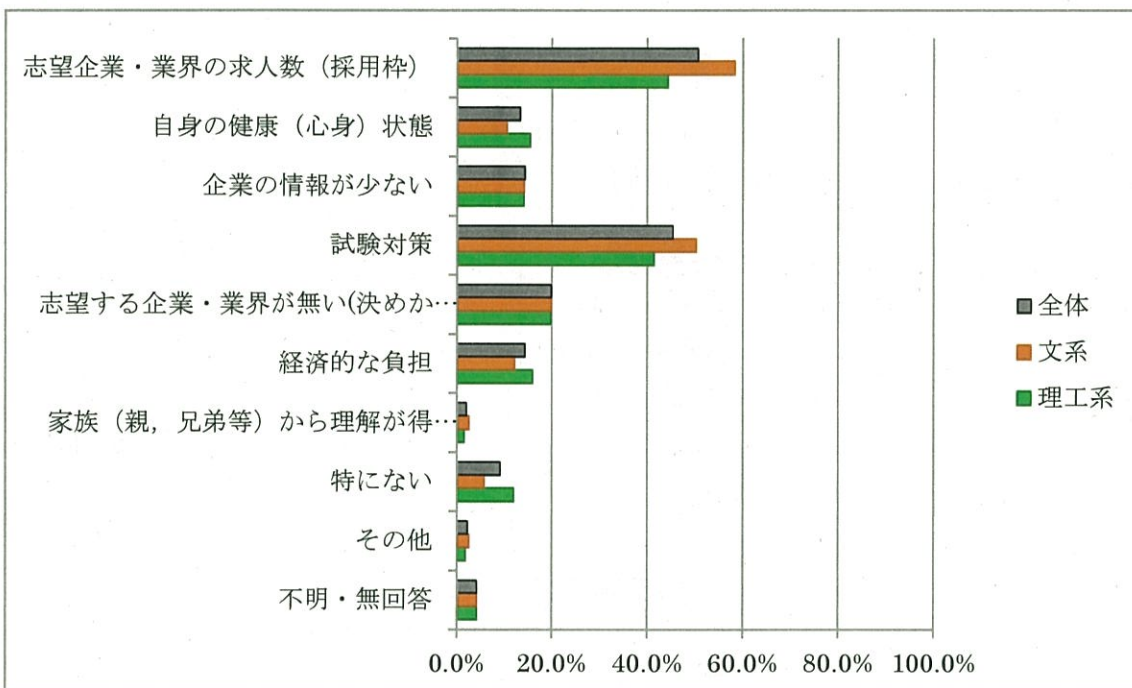
※グラフ

・学部別では、大学生は文系学部 310 名、理工系学部 382 名、高校生は普通科 375 名、専門科 502 名を 100 とした場合の割合

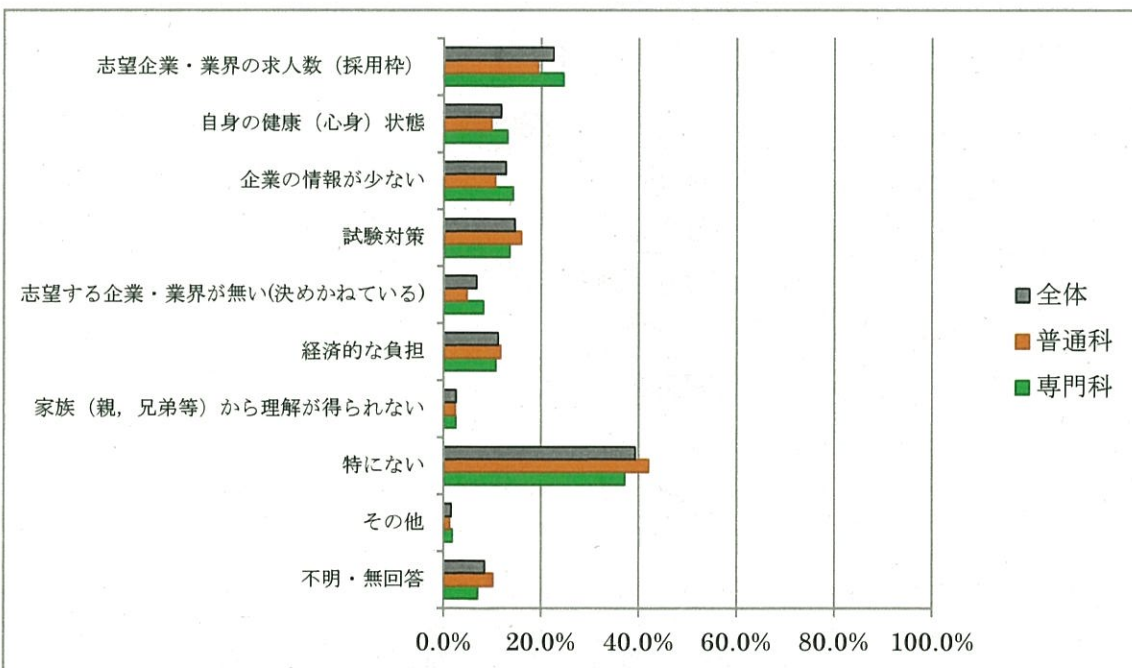
・性別では、大学生は男 377 名、女 319 名、高校生は男 516 名、女 356 名を 100 とした場合の割合

・出身地別では、大学生は県内 445 名、県外 250 名を 100 とした場合の割合（大学生のみ）

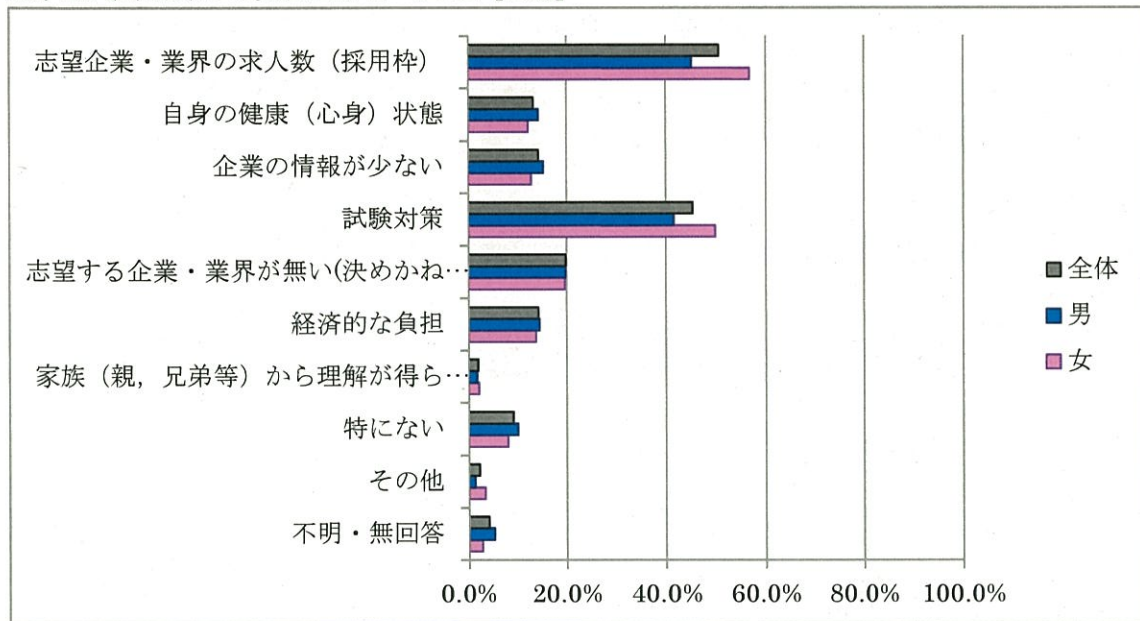
大学生が就職活動に不安を抱えていること【学部別】



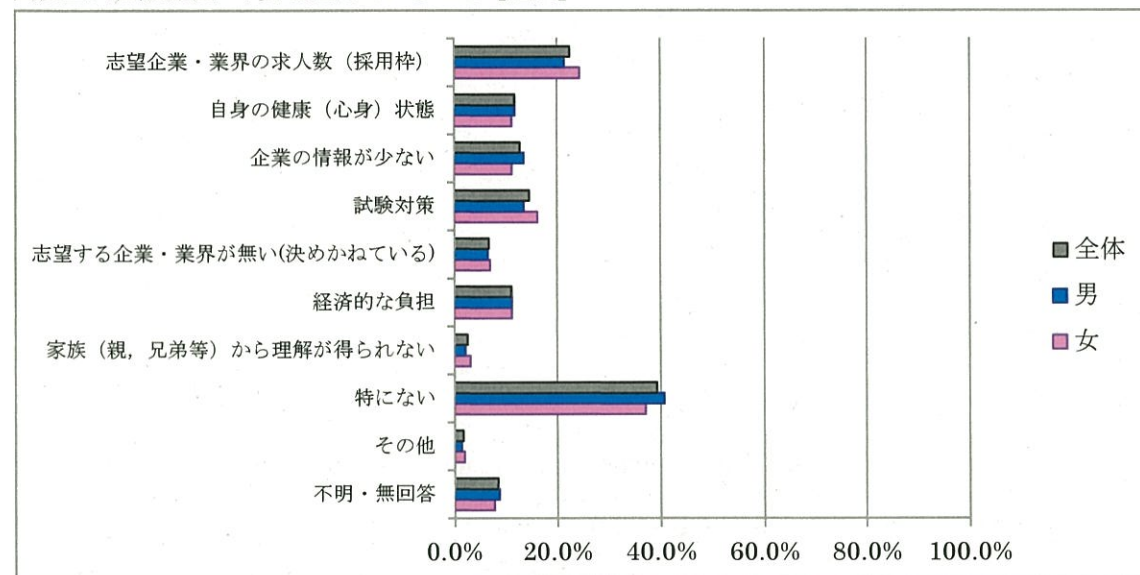
高校生が就職活動に不安を抱えていること【学科別】



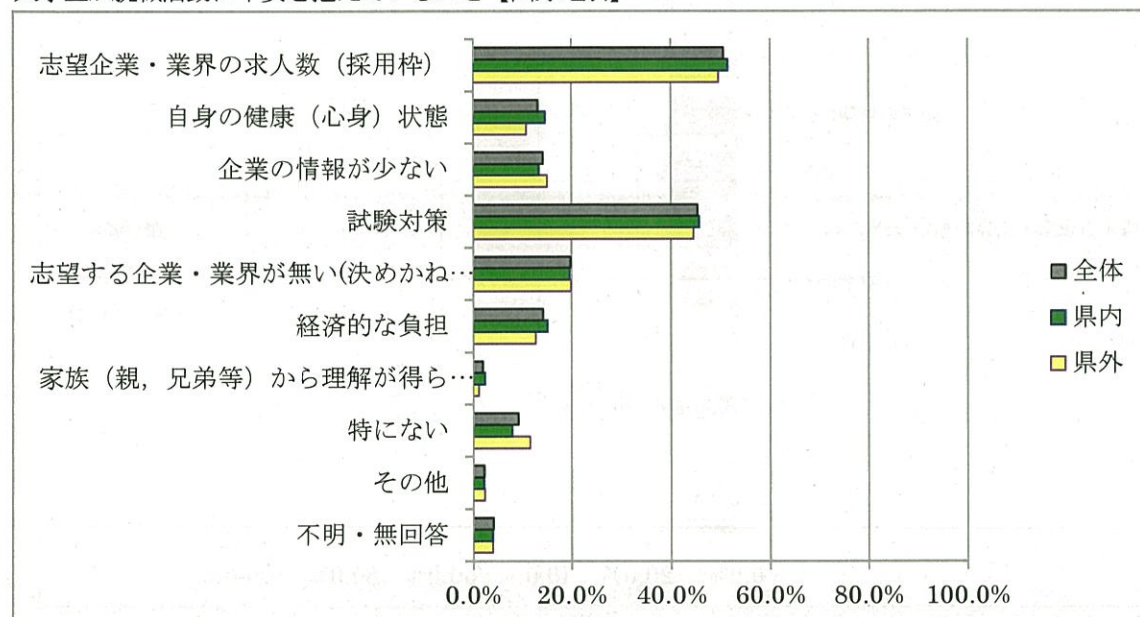
大学生が就職活動に不安を抱えていること【性別】



高校生が就職活動に不安を抱えていること【性別】



大学生が就職活動に不安を抱えていること【出身地別】



■企業ニーズと学生ニーズの比較 [企業が学生に求める能力・学生が必要と感じる能力]

企業が学生に求める能力と学生が必要と感じている能力を比較した。

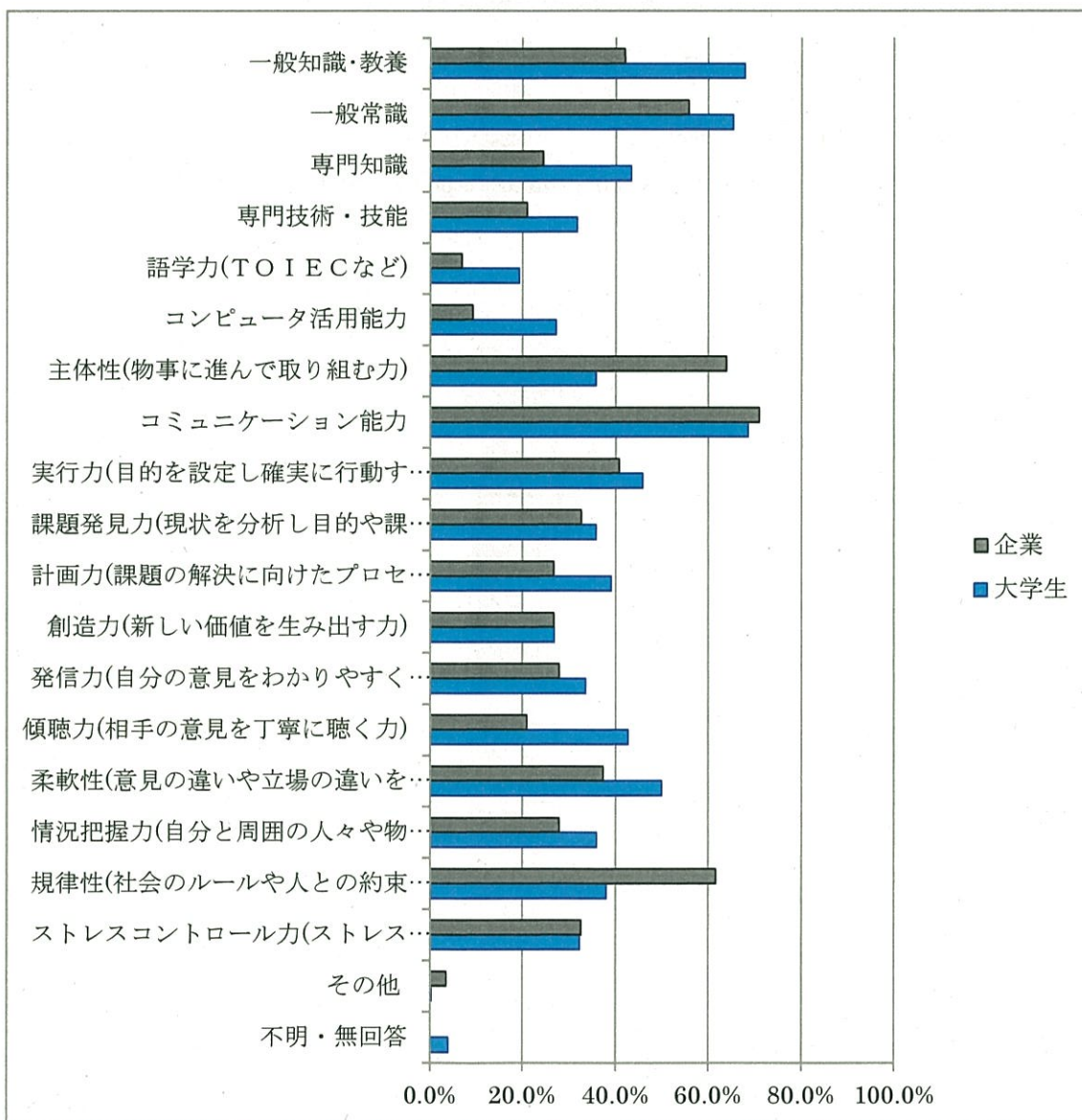
企業が学生に求める能力では、コミュニケーション能力が72.9% (62社) で最も高く、次に主体性(物事に進んで取り組む力)が65.9% (56社)、規律性(社会のルールや人との約束を守る力)が63.5% (54社)の順に高かった。

学生が必要と感じている能力としては、大学生では、コミュニケーション能力が68.6%(480人)、一般知識・教養が67.9%(475人)、一般常識が65.4%(458人)の順に高かった。

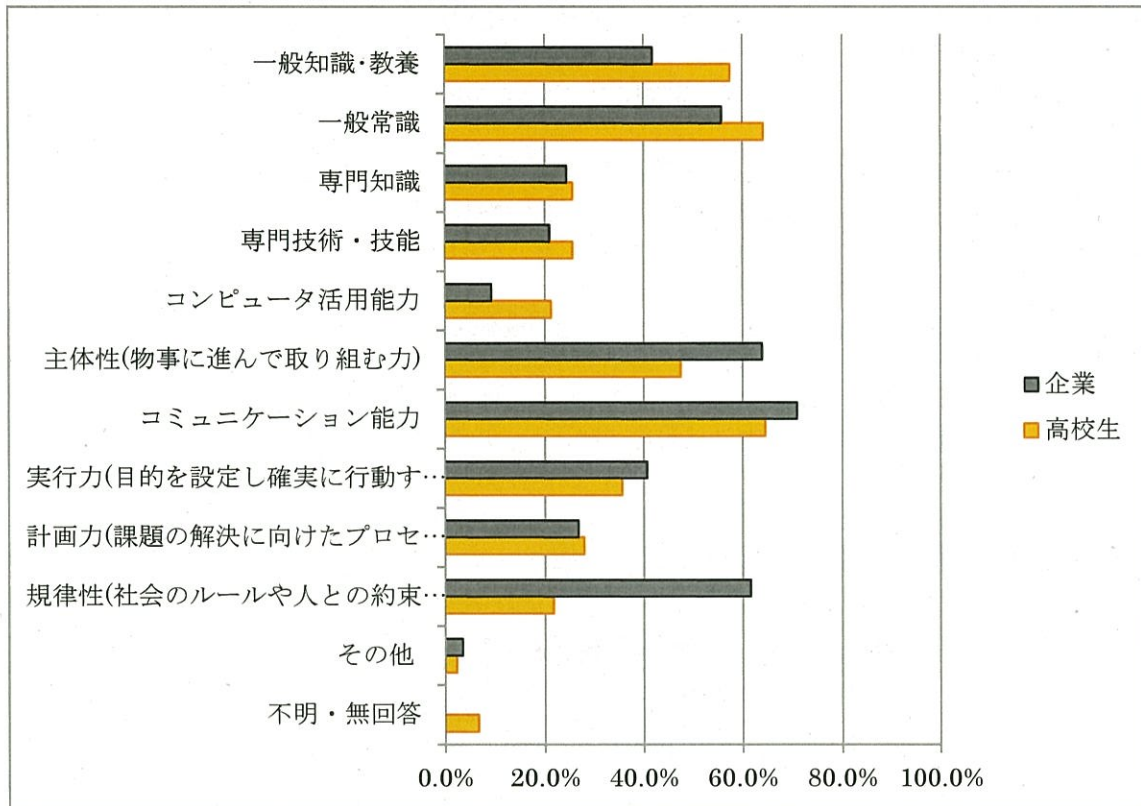
高校生でもほぼ大学生と同様で、コミュニケーション能力が64.6%(419人)、一般教養が64.3%(565人)、一般知識・教養が57.6%(506人)の順に高かった。

企業と学生(大学生・高校生)を比較すると、乖離が最も大きかったのは、規律性(社会のルールや人との約束を守る力)で、企業では63.5%(54社)が重視するとしているのに対し、学生では、大学生で32.3%(226人)、高校生で21.8%(192人)で、次に主体性(物事に進んで取り組む力)が、企業では65.9%(56社)が重視するとしているのに対し、学生では、大学生で35.7%(250人)、高校生で47.7%(419人)であった。

企業が学生に求める能力/大学生が必要と感じている能力



企業が学生に求める能力／高校生が必要と感じている能力



■企業ニーズと学生ニーズの比較 [企業が学生に不足と感じている能力・学生が自分に不足と感じている能力]

企業が学生に不足と感じている能力と学生が自分に不足と感じている能力を比較した。

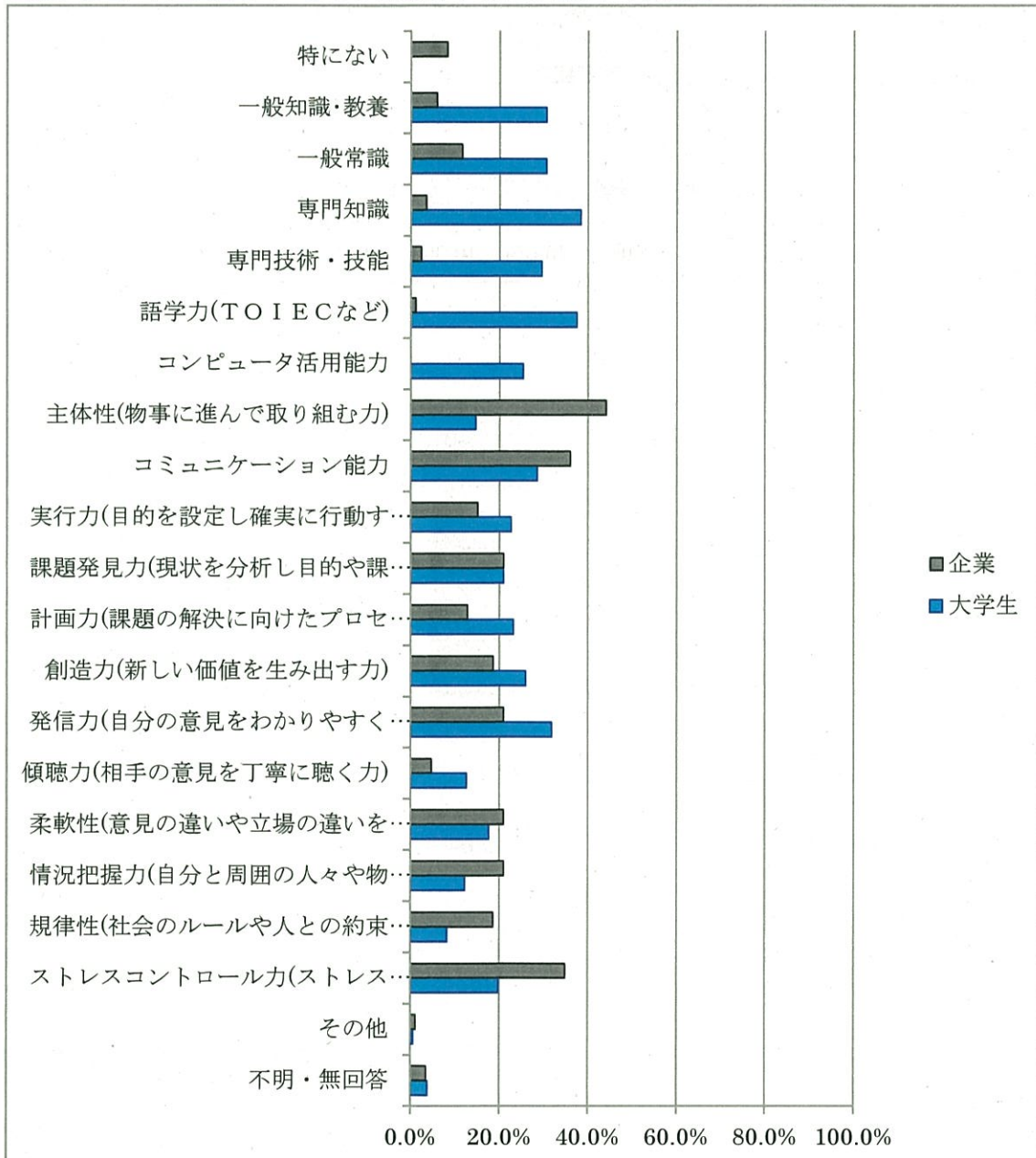
企業が学生に不足と感じている能力では、主体性（物事に進んで取り組む力）が45.9%（39社）で最も高く、次にコミュニケーション能力が37.6%（32社）、ストレスコントロール（ストレスの発生源に対する力）が36.5%（31社）の順に高かった。

学生が自分に不足と感じている能力としては、大学生では、専門知識が38.4%（269人）が最も高く、次に語学力が37.6%（263人）、一般知識・教養、一般常識がともに30.6%（214人）の順に高かった。

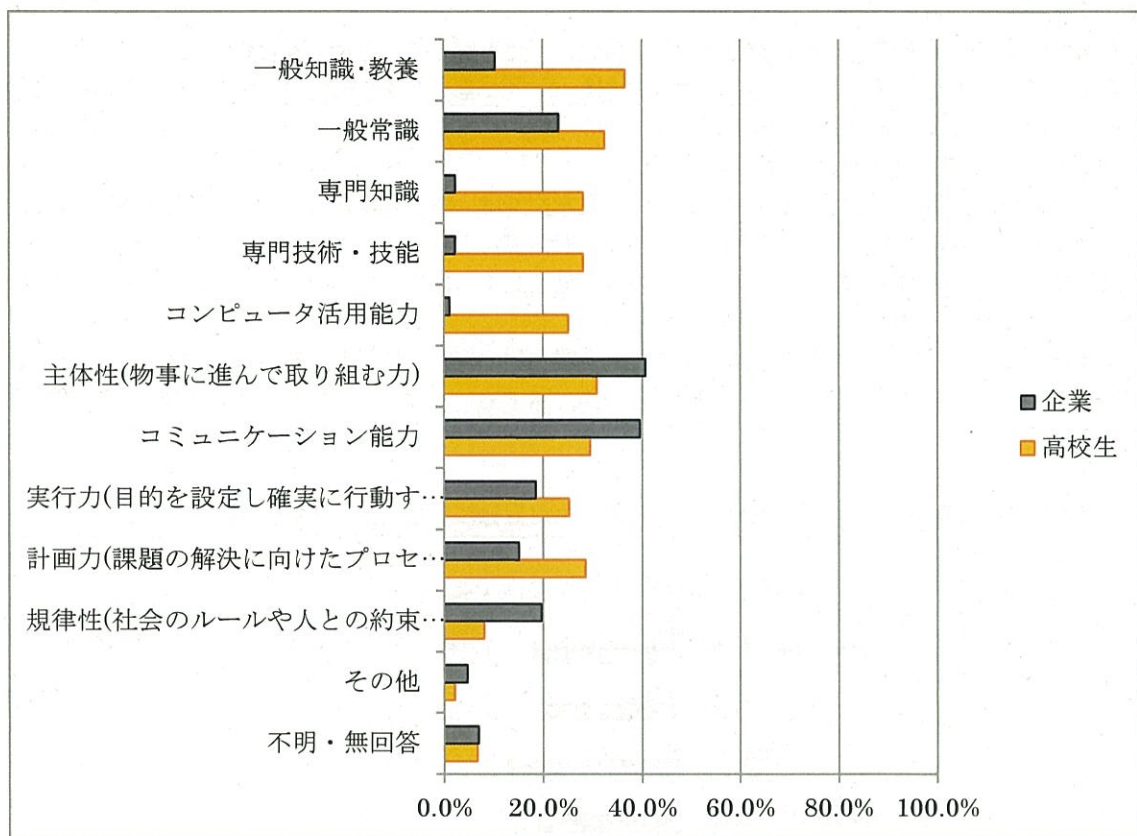
高校生では、一般知識・教養が36.6%（322人）が最も高く、次に一般常識が32.5%（286人）、コミュニケーション能力が29.6%（260人）の順に高かった。

企業と学生（大学生・高校生）を比較すると、企業が他の能力と比較して重視していない能力（一般知識・教養、一般常識、専門知識、専門技術・技能、語学力）に対して、学生が不足と感じているようだ。

企業が学生に不足と感じている求める能力／大学生が自分に不足と感じている能力



企業が学生に不足と感じている求める能力／高校生が自分に不足と感じている能力



■企業の学生評価〔企業が学生に求める能力・企業が学生に不足と感じている能力〕

企業が学生に求める能力と企業が学生に不足と感じている能力を比較した。

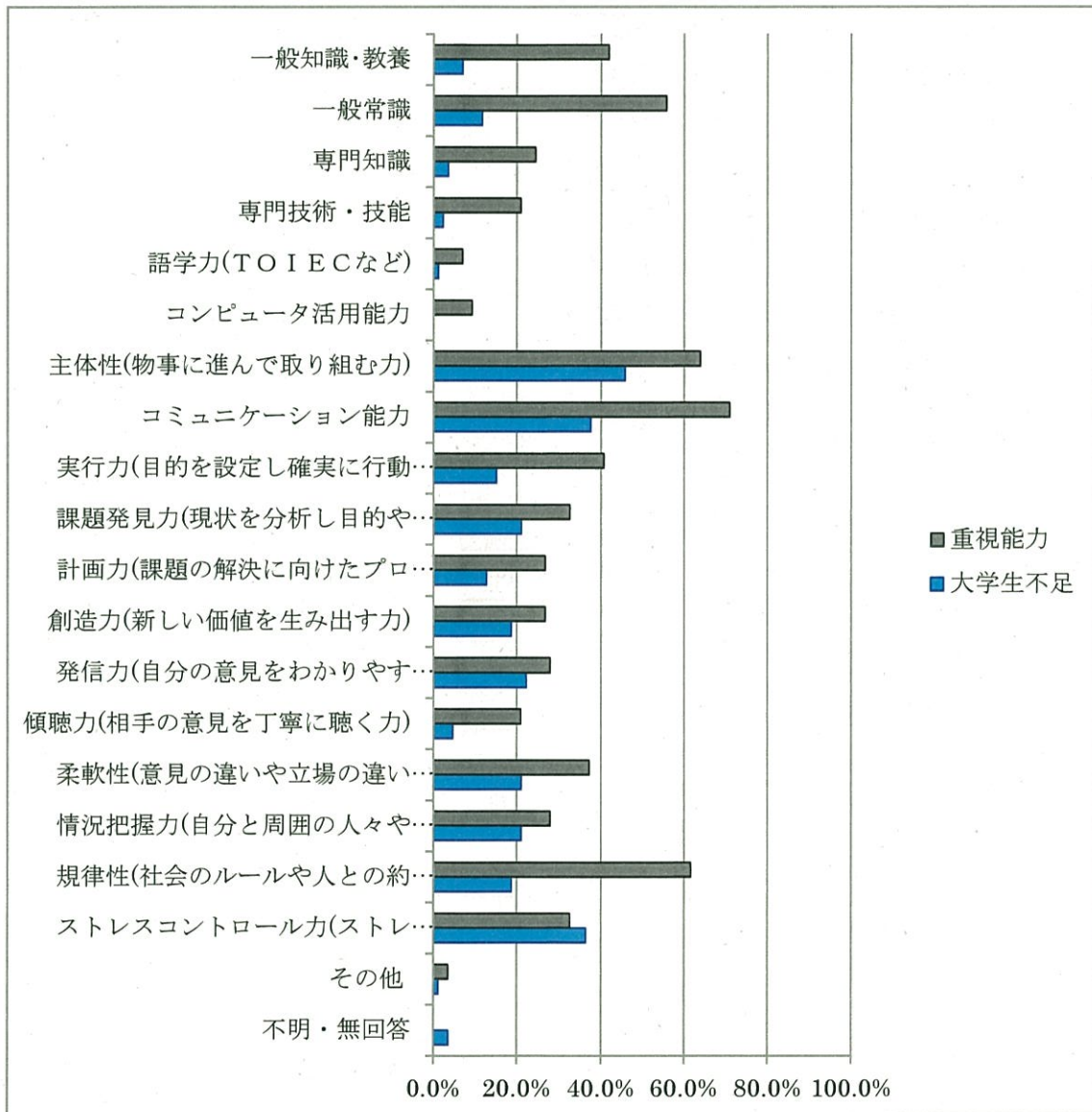
大学生では、企業が学生に求める能力のうち、コミュニケーション能力では、求めるが72.9%（62社）に対して、不足が37.6%（32社）、主体性（物事に進んで取り組む力）では、求めるが65.9%（56社）に対して、不足が45.9%（39社）と重視する能力でありながら、不足しているという評価であった。

また、ストレスコントロール（ストレスの発生源に対する力）では、求めるが32.9%（28社）に対して、不足するが36.5%（31社）と高くなっている。

高校生においても、企業が学生に求める能力のうち、コミュニケーション能力では、求めるが72.9%（62社）に対して、不足が41.2%（35社）、主体性（物事に進んで取り組む力）では、求めるが65.9%（56社）に対して、不足が42.4%（35社）と求める能力でありながら、不足しているという評価であった。

また、発信力（自分の意見を分かりやすく伝える力）では、求めるが22.4%（19社）に対して、不足するが31.8%（27社）と高くなっている。

企業が学生に求める能力／企業が大学生に不足と感じている能力



企業が学生に求める能力／企業が高校生に不足と感じている能力

